バカと堕天使と召喚獣

閃光の伯爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと堕天使と召喚獣

【Ｎコード】

Ｎ４７２９Ｖ

【作者名】

閃光の伯爵

【あらすじ】

元兵士の緋色？由比（ヒイロユイ）が学生として文月学園の生徒と過ごす物語。現在、強化合宿編です。見てくれるとありがたいです。

予習問題（始まりの序曲）（前書き）

有り得ない話ですがよろしくお願いします。

予習問題（始まりの序曲）

予習問題

第０話始まりの序曲

ＡＣ（アナザーセンチャリー）暦百九十七年、バートンの反乱の後の春。

俺の名は、緋色・由比。（ヒイロ・ユイ）
あくまで学生として過ごしている元ガンダムのパイロット。
しかし、戦った仲間達は、バートンの反乱後みなそれぞれの人生に戻った。戦争も終わり平和となったため、学生としてすごしている。

そして通っているのは、文月学園。偶然と科学とオカルトによりできた新たなシステムの試験校である。そして、緋色の学生生活二年目の春から
新たな物語が今、紡がれる。

予習問題（始まりの序曲）（後書き）

更新ペースは決まっていません。文才も有りませんがよろしくお願いします。

キャラクター紹介（前書き）

キャラクター紹介です。

キャラクター紹介

緋色由比（ヒイロユイ）

学力　Ａクラス
性別　男
身長　原作より少し大きい。
体重　あまり変化なし。
クラス　Ｆクラス。
理由　試験中に眠ってしまいＦクラスになってしまう。
召喚獣　ウイングガンダム（ビームサーベル装備）に召召喚獣を組み合わせたかんじ。
腕輪　バスターライフル召喚と使用。
バスターライフル召喚に２０点消費する。バスターライフル使用に３０点消費する。
威力は１００ダメージ（最低）
リリーナとの関係
ｏｖａの新機動戦記ガンダムＷＥＷ（エンドレスワルツ）のファイナルシューティングごよりは会っていない。
デュオなどとはたまに連絡しあっている。（雑談メイン）。
ウイングゼロは破壊した。

キャラクター紹介（後書き）

最初からウイングゼロはチートっぽいと思ったのでウイングにしてみました。十分チートっぽいですが。
二学期になったらウイングゼロを降臨させようとおもいます。

第一話（第一問）始まりの流星（前書き）

どうも第一話の投稿です。

第一話（第一問）始まりの流星

朝　校門前

「おはようございます」
「お前は誰だ？」
「転入生の緋色由比です。」
「お前が試験中居眠りしていた生徒か。この学園について説明を職員室でするからついてこい。」
「任務了解。」
移動中　しばらくお待ちください。

朝　職員室
「当学園は～～～（以下略）」
はなすこと二十分？
「ということだ。理解できたか、緋色？」
「はい、だいたいは。」
「ならば、自分の教室に向かえ。もうすぐＨＲがはじまるぞ。」
「了解しました。任務を遂行します。」
「ところで、その話し方はなんだ。」
「昔からの癖でなかなかぬけないんです。」
「わかった。急げ遅刻になるぞ。」
「先生はどちらに？」
「遅刻している観察処分者（学園の恥または、バカ代表）にこれをわたさないといけない。」
といって封筒をピラピラと振る。
さて任務を開始する。目標二ーＦ。緋色由比任務を遂行する

第一話（第一問）始まりの流星（後書き）

早速緋色（ヒイロ）が崩壊してしまいました。
次回　僕と翼と召喚獣
卓袱台と自己紹介と仲間達。

第二話（第二問）卓袱台と自己紹介と愉快な仲間達。（前書き）

第二話かいてみました。
自己紹介編です。

第二話（第二問）卓袱台と自己紹介と愉快な仲間達。

二ーF前

外から見て、途轍もなくぼろすぎる。このような所で授業か。

とりあえず先生がくるのを待つか。

十分後

「君は？」

「転入生の緋色由比です。」

「とりあえず呼ぶまで待っていてください。」

数分後

教室内

「このクラスに転入生がきます。」

「先生、もちろん女子ですよね？」

「男子です。」

「「「「「くそーーーーーー。せっかく俺達に春がきたとおもったのに。」」」」」デュオの相手よりも絶対大変だな。

「入ってきてください。」

教室に入ると、

男子４６女子２不明１という圧倒的に男子がおおかった。

設備は、古い卓袱台、古い座布団、カビ、キノコの生えた畳だった。

第一感想は、学園長がどんな人かみてみたくなった。

「卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があったら申し出てください。」

「すみませーん遅れちゃいました♪」

「早く座れウジ虫野郎」

「状況を考えろ」

「僕の扱い酷くない？」

「「酷くない。」」

「さっきから誰だ！僕を罵倒するのは。一人は雄二として、後一人

はだれだ。」
「状況をよめといっている。」
「はい。」

第二話（第二問）卓袱台と自己紹介と愉快な仲間達。（後書き）

とても長くなってしまいました。自己紹介に届かなかったです。

第三話（第三問）バカと（真）自己紹介。（前書き）

前回以外にもとどかなかっです。今度こそ自己紹介です。

第三話（第三問）バカと（真）自己紹介。

「では、廊下側の人からおねがいします。」
「ワシは、演劇部所属の木下秀吉じゃ、一年間宜しくたのむぞ。ちなみに性別は男じゃ。」
彼は、男か。近くの（たぶん観察処分者）＝バカ＋問題児だろう。
「…土屋康太」
口数が少ないな。俺がいっていいのかは別にして。
何人か自己紹介中。しばらくお待ちください。
次は俺か。
「俺の名は、緋色由比一年間宜しく頼む。」
ふつうに終わらせ、席に戻る。
二三人自己紹介（省略）
「次は、僕だね。」
「僕の名前は吉井明久気軽にダーリンって呼んでね♪」
「「「「ダーーーーーーーーーーリン」」」」
明久の顔が…
「すみません、忘れてください。」
吉井明久か。あとで話をきいてみるか。
「ーーーで読み書きが苦手です。趣味は、吉井明久を反殺しにすることです。」
「はろはろー吉井」
「あぅ島田さんか。」
あの二人、おかしい。
仲間なのだろうか。
数人自己紹介
その後

第三話（第三問）バカと（真）自己紹介。（後書き）

また終わりませんでした。すみません。

第四話（第四問）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。（前書き）

今ごろ気づきましたが、タイトル間違っていました。
それはともかく、自己紹介第三話。試召戦争は次からの予定です。

第四話（第四問）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。

「遅れてすみませーん。」
「自己紹介をお願いします。」
「俺の名は、デュオ・マックスウェル。逃げや隠れたりするが、嘘は言わないぜ。一年間よろしくぅー。」
デュオだと。何も聞いてなかったが。
「とりあえず空いてる席に座ってください。」
「はいはいっと。」
「デュオ何故お前が此処にいる？」
「いやー、それがさお前が学生やってると聞いてさ。俺も満喫してみよっかなーという訳。」
「お前らしいな。」
「静かにしてください。」
「「すみません。」」
先生が教卓を叩く。そしたら教卓が散っていった。
「代わりをもってくるので、自習をするように。」
「オイ、ヒイロ」
「違う、今の俺は緋色由比だ。」
「って読み方一緒じゃねーか。」
「二人、出ていったぞ。」
数分後
自己紹介中
「俺は、坂本雄二。好きに呼んでくれ。皆設備に不満はないか？」
「「「「大ありじゃーーーーー」」」」
「おいおい、すごいノリだな、緋色。」
「お前以上だ。」
「代表として提案するクラスに戦争を仕掛けようと思う。」

第四話（第四問）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。（後書き）

みなさんこんにちは、もしくはこんばんわ。ヒイロユイ役の緑川光じゃなくて作者の閃光の伯爵です。
ほとんどの人が姫路をだすとおもったでしょう。姫路ファンの皆様すみません。
なんか長くなってしまいました。そういえば、ヒロインについてかんがえてません。できれば意見をください。

第五話（第五問）バカと仲間と試召戦争。（前書き）

まさかのデュオ登場紹介は次にしたいとおもいます。

第五話（第五問）バカと仲間と試召戦争。

「俺達はAクラスに試召戦争をしかける事を提案する。」
「試召戦争だって」
「無理に決まっている。」
「「姫路さんがいたらなにもいらない。」」
「「おい、関係無いこというな。」」
（このクラス異常すぎないか緋色。）
「根拠ならあるさ。今からそれを教えてやる。」
「例えば、康太、いつまで姫路のスカートを覗いている」
「…別に覗いてなんかいない。」
「ムッツリー二だと。」
「奴は、本当に実在してたのか。」
（（いったいどんなやつなんだよ。））
「明久、姫路と、緋色とデュオが頭に？をうかべてるぞ。」
「説明しよう。ムッツリーニとは男子には畏怖と畏敬を、女子には軽蔑されてるムッツリスケベの帝王なんだよ。」
「「ようするに犯罪者だな。」」
「ブンブン。」
「ムッツリーニについてはいいな。そして、姫路がいる。ウチの主戦力だ。」
「それに、緋色と、デュオがいる。こいつらは、ガンダムのパイロットだった男だ。」
「「なんでお前がしっている。（いるんだよ！）」」
「俺の知り合いにいたんだよ。お前等にあった奴が。」
「「まさか、ハワードか？」」
「ああ。」
「これはおいといて、そしてそこにいる吉井明久だ。」
「え？僕。」

第五話（第五問）バカと仲間と試召戦争。（後書き）

また長くなってしまいました。次は宣戦布告までいこうとおもいます。

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告。（前書き）

和泉の信田さん感想ありがとうございます。話のペース遅くてすみません。

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告。

「コイツの肩書きは観察処分者だ。」
「「（おい、）それってすごいんですか。（すごいのか。）」」
「そうか三人は、しらないもんな。」
「いいや、理解している。」
「ほう。さすがだな。」
「観察処分者とは、簡単にいえば、教師の雑用、学園の恥、バカの中のバカにしか手に入らない肩書きだ。」
「違うよ、ちょっとお茶目な十六歳の…」
「「違わない、バカの代名詞だ。」」
「お前とは仲良くできそうだな。」
「お前もな。」
「まず、最初にクラスを叩く。明久お前はクラス大使として宣戦布告してこい。」
「下位勢力の使者て大変なことになるよね？」
「それは、二年前までだ。」
「騙されたと思って逝ってこい。」
「行かなかったら、デュオあれを明久（バカ）につかえ。」
「りょーかい。腕がなるぜ。」
「わかったよ。いってくるよ。」
数分後
「だまされたー」
「「「やっぱりな。」」」
「お前らを殺す。」
「懐かしいな、緋色。お前の名台詞のひとつだ。」
ばっ（明久が襲う音）
ドンッ（緋色が地面に押さえ込む音）
ブスっ（ビームサイスの柄で軽く刺す音）

「ぎぃやあああああ」（明久の悲鳴。）

「「「お前、バカか？」」」

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告。（後書き）

明久大変ですね。（笑）デュオのビームサイスについては、次で紹介します。

キャラクター紹介２（前書き）

今回はデュオ、ヒルデ、ゼクスの紹介です。

キャラクター紹介２

紹介２
　デュオ・マックスウェル
身長　原作より少し大きい
体重　あまり変化していない
目・髪　原作と同じ
性格　変化なし
顔　ほぼ同じ
召喚獣　ガンダムデスサイズみたいなもの
武器　ビームサイス
　バスターシールド
一発１０点消費
腕輪　ハイパージャマー（透明化）一秒一点消費
ヒルデとは恋人関係で同棲している。
また、携帯用ビームサイスを常に持っている。
　ヒルデ・シュバイカー
身長　少し伸びた。
体重　デュオ以外に公開できません
目・髪　変化なし
性格　変化なし
顔　少し大人っぽく
召喚獣　トーラスみたいな感じ
武器　ビームライフル
腕輪　ビームカノン
召喚・使用２０点消費
クラス
デュオとは恋人関係。
デュオについてきたことにより転入。

ゼクス・マーキス
二年世界史教師
身長・体重　あまり変わってない
目　　青
髪色　　金髪
髪型　　先を結んでいる。
顔　　変わっていない。
召喚獣　エピオンみたいな召喚獣。
武装　　ビームソード
　　ヒートロッド
腕輪　　武装大型化
１０秒５点消費
ノインとは結婚した。
リリーナとはしばらくあっていない。

キャラクター紹介２（後書き）

ゼクス登場。カトルとトロワはだすかわかりません。
随分前に出したアンケートは試召戦争までとします。

第七話（第七問）昼食と科学物質（前書き）

土曜日は用事があってこうしんできません。すみません

第七話（第七問）昼食と科学物質

４時限目終了後
「デュオ、お前は、昼はどうするのか？」
「ヒルデが持ってきてくれるはず。」
「デュオー」
「よお、ヒルデ」
「ほら、弁当」
「いつも、ありがとな。」
「デュオ、ヒルデ屋上に逃げるぞ」
「「なんで？」」
「これより異端審問会の準備をはじめる。同士達よ、デュオ・マックスウェルをとらえるぞ。」
「「「おーーーー」」」
「緋色にデュオ一緒に昼たべないか？」
「先に屋上にいっててくれ。」

屋上
緋色ｓｉｄｅ
これはいったいなにがおきている。
「ねえ、デュオ。そこの女子誰？」
「私はヒルデ・シュバイカーよろしくね。」
「僕は吉井明久、よろしく。ところで、デュオなにしてるの？」
デュオｓｉｄｅ
「おらおらー、俺をみた奴は皆臨死体験するぜー」
といいながら、ビームサイスで「斬って斬って斬りまくるぅ！」
「デュオ、学生らしくしてよ。」
「悪ぃ悪ぃ、つい、昔の癖で。」
「何で人が倒れてんだ？」
（姫路さんの手料理のせいだよ）

アイコンタクトができるとはなかなかいい学校かもな。

第七話（第七問）昼食と科学物質（後書き）

さて、この後の犠牲者はだれでしょうか。
次回臨死体験と作戦会議と補給テスト

第八話（第八問）昼食と作戦会議と臨死体験（前書き）

できればWからもっと出そうと思います。

第八話（第八問）昼食と作戦会議と臨死体験

第八話
緋色ｓｉｄｅ
「皆さん何をしているんですか？」布施先生登場
「昼食中です。」
「少し貰っていっていいですか？」
「僕たちは腹いっぱいなのでぜんぶいいですよ。」
ポケットからタッパーとは常識はずれのきょうしだな。
「あの、先生。容器ごと持っていっていいですよ。」
「では放課後までにはかえします。」
「明久、戦争はいつからか？」
「午後からだよ。」
「姫路、緋色、デュオは補充試験を受け、姫路は突撃。二人はかえってこい。」
「わかりました。」
「任務了解。任務を遂行する。」
「りょーかいっと」
「秀吉、ムッツリーニ、島田は前線でつっこめ。」
「承知。」
「…わかった。」
「わかったわ」
「明久、お前は俺の護衛だ。」
「俺達のクラスは最強だ。」
Ｆクラス対Ｄクラス　戦争開始
「俺達は補給試験をうけるぞ。」

第八話（第八問）昼食と作戦会議と臨死体験（後書き）

試召戦争はじまりました。
もしかしたら、次でクラス戦終わるかもしれません。

第９話（第９問）戦争と作戦と流星（前書き）

試召戦争編スタート

第9話（第9問）戦争と作戦と流星

第9話（第9問）戦争と作戦と流星
「「「先生、補充試験を受けます！」」」
「「分かった。このテストの点数が召喚獣の点数になるがよろしいか？」」
「「おい、ゼクス何故お前が此処にいる？」」
「私はゼクス・マーキス。世界史の教師だ！」
「お前が教師だったとは想像がつかないだろ！」
「この事は後にしてテストを受けろ。」
「はい。」
「了解、任務を遂行する。」
「りょーかいっと。」
「では、始め！」
補充試験終了後
「それでは、がんばってこい！」
「「おいデュオ、（緋色）ゼクスが人を応援しているぞ。」」

Fクラス
「よく帰ってきたな二人とも」
「俺たちは何をすればいいのか？」
「そろそろ決着が着くはず」
「「戦争終了！勝者Fクラス！」」
「「「よっしゃあああ」」」
Fクラスの勝利で終わった。

第９話（第９問）戦争と作戦と流星（後書き）

ゼクス登場。ほかも出そうと思います

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後（前書き）

十話連載達成。これからもよろしくお願いします。

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後

第十話卑怯と変態と勝者の放課後
「それじゃ、戦後対談の開始だ。」
「設備交換は明日でいいか？今日は遅いから。」
「いいや、交換はしなくていい。代わりに条件がある。Ｂクラスのエアコンの室外機をこわしてくれ。」
「ちょっとまっ…」
「デュオ、明久をだまらせろ。」
「すみませんでした。」
それを無視して対談のほうを見る。終わったようだ。
緋色ｓｉｄｅ
「解散！明日にそなえとけよ。」
「ねえ、緋色、デュオ？一緒に帰らない？」
「「そうしたいが、ゼクスによばれている。」」
「ゼクス？」
「世界史の教師だ。」
「あのゼクス先生に？」
「ああ。あのってどれだ。」
「とても厳しいイケメンの先生だよ。」
「「じゃあな。また明日」」
「デュオ、いくぞ。」
「ああ」
「ゼクス先生いますか？」
「来い」
「失礼します」×2
「用事とはなんだ。ゼクス。」
「リリーナが事故にあった。下手したら冷凍睡眠行きだ。」
「なんだって」×2

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後（後書き）

リリーナ登場？ヒロインはリリーナではありません。バカテストについてアンケートをとろうとおもいます。

第十一話（第十一問）リリーナと病院とガンダムのパイロット（前書き）

リリーナにいったい何が？答えは次から

第十一話（第十一問）リリーナと病院とガンダムのパイロット

第１１話
緋色ｓｉｄｅ
「リリーナが事故に？」
「ああ。私にはまだやるべきことがある。だからリリーナを頼むぞ。」
「了解。任務を遂行する。急ぐぞデュオ！」
「へいへい、ぞっこんってやつね。」
「廊下は走るなよ。」
俺は廊下を走り抜ける。デュオは着いてこれてないみたいだ。
次の瞬間
誰かとぶつかった。
「痛いじゃない。ちゃんと前みて歩きなさいよ！」
「すまない。立てるか？」
「ありがと。」
そのときデュオがきた
「おいおい、緋色！リリーナお嬢様が大変じゃないのかよ？」
「お前、名前は？」
「木下優子よ。」
「すまなかった、優子。」
「置いてくぞ緋色。それとも二人っきりで過ごしていてもいいぞ。」
「待ってろ、すぐに追いつく。」
俺はまた走り出した
　病院のとある一室
リリーナｓｉｄｅ
バンという大きなドアの開く音で目を覚ました。
そこには、ヒイロとデュオがいた。
「ヒイロ！」

「大丈夫かリリーナ？」
「あなたは今何をしているの？」
「文月学園の生徒としてこいつといっしょにすごしている。」
「あなたが学生？信じられない。」
「ノインとゼクスに聞けばわかる。」

第十一話（第十一問）リリーナと病院とガンダムのパイロット（後書き）

木下優子登場。ノインは物理の教師として出す予定です。この後どうなるかお楽しみに。

第十二話（第十二問）ヒロインと堕天使と死神（前書き）

ノインなどについてはのちほど

第十二話（第十二問）ヒロインと堕天使と死神

第１２話

「おいおい、緋色なんでノイン隊長なんだ？」

「それは、ノインも文月学園の物理の教師だからだ。」

「ゼクスがいたからもしやと思って調べたら、当たった。」

「ところで緋色、そろそろ帰らないとやばくないか？」

「悪いがリリーナ俺たちは帰らせてもらう。」

「さようなら、緋色」

「さようなら、リリーナ」

「二年前と同じ台詞つかうなよ。」

「急ぐぞ、デュオ」

「へいへい。」

帰り道

「おい緋色」

「なんだデュオ」

「あれって放課後ぶつかった娘じゃないのか？」

「優子だったか？それがどうした？」

「少し待ってろ。片づけてくる。」

「待てよ、俺も手伝うぜ！」

「ねえ、お兄さん達と一緒にエメラルドの都までランデブーしないかい？」

「何時の時代の人間だ？お前等は？」

「おら、おらー死神と堕天使様の御通りだー」

「何者だ！」

「お前等を殺す。デュオ、俺にも一本貸してくれ。」

「ほらよ。お前にやるぜ。」

「ありがとなデュオ。お前が相手しててくれないか？」

「いいが、お前は？」

「優子を守る。片づいたら帰っていいぞ。ヒルでが心配してるだろうから。」

緋色ｓｉｄｅ

「優子、大丈夫か？」

第十二話（第十二問）ヒロインと堕天使と死神（後書き）

不良と遭遇。なかなかＢクラス戦いけません。

第１４話（第１４問）ヒロインと堕天使と帰り道（前書き）

緋色は優子ルートで行こうとおもいます。

第１４話（第１４問）ヒロインと堕天使と帰り道

第１４問
緋色ｓｉｄｅ
「優子、だいじょうか？」
「足を少し痛めただけ。」
「立てるか？」
「うん」
「嘘つくな。けが人は別に我慢などしなくていい。」
「いや、大丈夫だから。」
「俺に気をつかわなくていい。乗れ」
「悪いわね。なら、おねがいね。」
「了解した。」
帰り道
「昔の貴方ってどんな人だったの？」
「昔は気づいたら、アディン・ロウという奴と一緒に人を殺しながら仕事していた。どうした？目が点になってるぞ？」
「過去がすごいなーと思って」
「オペレーションメテオと言う出来事ををしってるか？あのガンダムにのっていたのは、俺とさっきの奴デュオだ。」
「大変だったみたいね。」
「今度はお前が話す番だ。」
「女子の秘密を詮索したらいけないってならわなかった？」
「俺は、テロリストとして育てられた。だから知らない」
「家についたみたいね。」

第１４話（第１４問）ヒロインと堕天使と帰り道（後書き）

ところでデュオの活躍は省略されてましたね。

第１５話（第１５問）ヒイロと優子と木下家（前書き）

１３話忘れてました。すみません。

第１５話（第１５問）ヒイロと優子と木下家

第１５問

緋色ｓｉｄｅ

インターホンを鳴らす。

ガチャっと扉の音がなる。

「どちら様でしょうか。」

「自分は二年クラスの緋色由比と言います。それはともかく、優子さんが足を怪我してるので治療をお願いできますか？」

「ごめんなさい。道具はあるけど、使い方分からなくて。」

応急処置ができない大人は初めてみたな。

「先に優子の部屋にいっててくれない？」

「それは、さすがに優子さんにご迷惑が掛かると思いますが」

「別にいいわよね？優子？」

「え…ええ。」

「お邪魔します。」

「お邪魔なんて、むしろ大歓迎よ。はい、救急箱。」

「ありがとうございます。優子、もう少しの辛抱だ。」

「う…うん」

「どうした？顔が赤いぞ？」

「そ…それは」

「聞かないでおくとするか」

よく考えたら女子とあまり交流はなかったな。これが時代の変化か。

こんな事を考えながら部屋に入った。

第１５話（第１５問）ヒイロと優子と木下家（後書き）

優子の部屋に入った緋色。この後がどうなるか、お楽しみに。

第１６話（第１６問）ヒイロと優子と腐女子（前書き）

１５話連載記念。なにもするきはないですが。そういう事でしてほしいことがあったら送ってきてください。感想もお待ちしております。

第１６話（第１６問）ヒイロと優子と腐女子

第１６話

緋色ｓｉｄｅ

部屋ひ入ったら、ＢＬ（ボーイズラブ）の本や、脱ぎ捨てられたジャージがあった。

「ほう、女子はＢＬが好きなのか。」

「みんなは知らないけど。私は面白いとおもうわ。」

「みんなにばらして…」

「やめて、それだけは」（涙目＋上目遣い）

「もともとばらしたりしないが、今のが可愛かったからいいか。」

「緋色、緋色にとって私は可愛い？」

「ああ、もちろん。昔のあの子に似てて少し罪悪感があるが。」

「昔のあの子？」

「ああ。おれのせいで死んだ少女だ。」

「私とどこがにてるの？」

「純粋で可愛い笑顔が。」

「緋色、私と付き合ってください。」

「お前がいいのならいいが。キスでもするか、証として。」

といって唇を重ねる。

ガチャっと音がなり

「二人ともお茶いる？ごめんねー。邪魔して。せっかくだから泊まっていったら？着替えを持ってるんでしょ？」

「はい。なら、お言葉に甘えさせていただきます。」

第１６話（第１６問）ヒイロと優子と腐女子（後書き）

すみません。無茶苦茶でした。次は朝の話ですね。

第１７話（第１７問）木下家の夜と添い寝と暴走（前書き）

最近緋色がバカみたいに崩壊してるきがします。

第17話（第17問）木下家の夜と添い寝と暴走

第17問

「ところで、何処で寝るの？やっぱり、優子の部屋？」
「別にどこでもいいです。そんなワガママを言う権利はありませんので。」
「なら、優子と同じベッドで寝たら？いいでしょ、優子？」
「緋色がいいっていうなら」
「俺は大歓迎だ。」
「なら、おやすみなさい。」
「朝ご飯は俺が作らせてください。泊まらせてくれるお礼をしないといけないので。」
「悪いけどおねがいね。」
優子母退場。
「優子、俺が隣でいいのか？」
「もちろん。にしてもなんかすごいわね。」
「なにがだ？」
「今日、初めてあったのに付き合ったなんて。」
「しまった！」
「優子、すまない。明日の俺は生きて会えるか分からない？」
「なんで？」
「クラスメイトが嫉妬により暴走するからだ。」
「私も手伝うわ。」
「すまない。おやすみ、優子」
「いきなり話題かえないでよ。」
「そろそろ寝ると思ったからな。」
「なら、腕貸して。あたし、ひいろの腕を抱いて寝る。」
優子が寝息を立てて寝てる。
写真を撮って寝た。

第１７話（第１７問）木下家の夜と添い寝と暴走（後書き）

前回に続きベタな話でした。次回学校までいけるかな？

第１８話（第１８問）木下家の朝と登校と暴走（前書き）

さあ、このカップルが無事に学校に着くのでしょうか。

第１８話（第１８問）木下家の朝と登校と暴走

第１８話
木下家　朝
緋色ｓｉｄｅ
目が覚めると優子に抱きつかれていた。
「優子、悪いがどいてくれないか。」
「いや、ずっとこうしている。」
「下着見えてるぞ」
もちろん嘘だが
「緋色だから問題ない」
「秀吉、助けてくれ！」
「どうしようかのうー」ニヤニヤ
「助けないと朝食、昼食抜きだぞ！」
「なぜじゃー」
「お前のカーさんにたのまれたからだ。だから頼む」
「優子、俺はしつこい女は嫌いだ。」（緋色の声マネ）
「私のこと嫌い、緋色？」
「もちろん好きにきまっている。」
「わかった。どく。」
「ありがと、優子。ついでにさっきの台詞いったのは、秀吉だ。」
「俺は朝食でもつくるか。」数１０分後
「とてもおいしい。」
「とてもおいしいのじゃ」
２０分後
「いくぞ、優子。」
「うん、緋色手を繋いでいこ。」
「警戒しておけよ。お前は俺がまもるが。」
シュッ　ザクッ

カッターがきに食い込む。
「優子すまない。」
「な、なに。」
優子を横にして持ち上げる。そしてにげる。

第１８話（第１８問）木下家の朝と登校と暴走（後書き）

第一回サバイバル大会スタート

第１９話（第１９問）カップルの朝と登校と暴走（前書き）

学校に無事つけるか。スタートです。

第１９話（第１９問）カップルの朝と登校と暴走

第１９問
緋色ｓｉｄｅ
今、おれは優子を横に抱いてはしっている。俗にいうお姫様だっこというやつである。
取り寄せたバスターライフル（人サイズ）を使いたいが、場合によっては優子に被害がでるためつかわないでいる。
こんなこと考えながら走っていて軽くカッター二十本はよけた気がするが問題ない
少しでも優子をみたら走れないことになりそうな気がするので視界にいれずはしっている。
逃走すること二十分やっと校門に着いた。
「どうした？緋色、お前が女子をさらうなんて。」
「「先生、違います。」」
「お前等は付き合っていたのか？色恋沙汰までは言わないが、授業をなまけないように。」
「「はい。先生また後で。」」
急いで教室に向かう。
そしてレーダーを見ながら、敵を待つ。
「やった。いちばんのりだー」
「ターゲットロックオン、はかいする。」
「ぎゃあああああ」
明久の断末魔の叫びをＢＧＭに凶戦士達が襲いかかってくる。
バスターライフルを放った。黒い山があったが気にしなかったが

第１９話（第１９問）カップルの朝と登校と暴走（後書き）

次回Ｂクラス戦の予定です。トロワあたりを出そうかと思っています。

第２０話（第２０問）卑怯と変態と鬼畜野郎（前書き）

二十話連載記念。五十話までに書いて欲しい話があったらおねがいします。

第２０話（第２０問）卑怯と変態と鬼畜野郎

第二十話　燃え尽きない流星？
緋色ｓｉｄｅ
「おい、明久Ｂクラスに宣戦布告にいってこい。」
明久の状態を気にせず雄二が言う。
「待ってよ！雄二。僕の状態をみて、なぜ、そんな台詞がでるんだよ？」
「だって、緋色のバスターライフルをモロに喰らっただけだろ？」
だけではすまないと思うが？
「おい、明久、もし行ってくれたら、お前が大好きな姫路に告白する権利をやる。」
適当に言ってみる
「でも、姫路さんに迷惑だし、みんなに襲われるじゃないか？」
「おはようー、みんなー」
デュオか、ちょうど良い
「おい、デュオ！明久が告白するらしいからじゃまな奴を撤去するぞ。」
「了ー解」
「緋色、どういう状況じゃ？」
「明久！するのは放課後にしろ！とりあえず行ってくれ。」
「いってくるよ。」
数分後
「ねえ、雄二！Ｂクラスって美少年ずきっていってたのになんで襲ってくるか、理由を聞こうか？」
「「「お前がおもしろいから。」」」
「貴様等殺しきる！」
はぁぁぁぁ（明久が襲う声）
バァァァン（バスターライフルの発射音）

ガンガンガンガン（雄二が明久を蹴る音）
どさっ（デュオが屍の山に載せる音）
「「「死体４４体いっちょあがりー」」」

第２０話（第２０問）卑怯と変態と鬼畜野郎（後書き）

デュオと緋色と雄二のすばらしいコンビネーション

第２１話（第２１問）昼食と薬と堕天使（前書き）

Ｂクラス戦スタート（の予定です）

第２１話（第２１問）昼食と薬と堕天使

第２１問

「明久、戦争はいつからか？」

「午後からだよ。」

「午後からか。ならいける。デュオ、悪いが姫路のボディガードあたりになってくれないか？」

「なんで姫路さんなの？」

「「「自分の頭をつかえ！」」」

「午後からなら飯にしようぜ！」

「ああ。」

「おい明久、秀吉が女になったらどうする？」

「きゅうにどうしたの？緋色？」

「あいつの飯に性転換薬をまぜておいた。」

「ほんとに？でも秀吉は迷惑じゃないの？」

「戻す薬もちゃんとある。」

「さすが緋色！ところで早く行こう。塩水が僕らを待っている！」

「お前だけだ。」

屋上

ばた。

「秀吉、どうした？」

「少し眠ってもらっているだけだ。」

「緋色！」

「秀吉を少しかりるぞ。」

「理由を説明しろ。」

「明久、たのんだ。」

「頼まれた。みんなよく聞いて秀吉はこれから女になるんだ。」

第２１話（第２１問）昼食と薬と堕天使（後書き）

秀吉が女になってしまいました。

第２２話（第２２問）秀吉と薬と性転換（前書き）

秀吉視点でいきます。

第２２話（第２２問）秀吉と薬と性転換

第２２問
秀吉ｓｉｄｅ
ここは、たぶん、空き教室じゃな。じゃがなぜ此処にいるのじゃろうか？
「緋色！わしは一体？」
「俺のせいでおまえは女になった。」
「なんじゃと。」
「もし、いやならこの薬を飲め、そうすれば男に戻れる。早くしたほうがいい。ついでに優子とお前の母さんの許可は得た。」
「わしは、このままでいいのじゃ。今から女なのじゃから、明久を好きでいても自然じゃからのう。」
「やはりな。ついでに今晩のニュースでこの薬はでる。はやく戻るぞ、秀吉。」
「わかったのじゃ！」
屋上
「すまぬ、またせたのう。」
「迷惑かけてすまない。」
「明久よ、」
「何、秀吉？」
「わしとつき合ってくれぬかのう？」
「僕なんかでよければよろこんで。」
「「え」」
島田、姫路、すまぬのう。
「「やっぱりな。」」
なに、気付かれていたのじゃと？
「「「おめでとう。明久」」」
「デュオはともかく、ムッツリーニと雄二が素直に祝福するなんて

意外だね」
「「しつれいな」」
「ところで、姫路に告白はもういいのか？」
「あ、わすれていたよ。」

第２２話（第２２問）秀吉と薬と性転換（後書き）

また、すぐ結ばれちゃいました。すみません。感想、お待ちしておきます。

第２３話（第２３問）処刑と作戦会議と僕の関節（前書き）

姫路と島田はどうなるか。また、Ｂクラス戦は？文才ありませんが、宜しくおねがいします。

第２３話（第２３問）処刑と作戦会議と僕の関節

第２２問
緋色ｓｉｄｅ
「それはないだろ、明久。」
「姫路さん、ごめんなさい。」
「私は明久君には、明久君のつき合いたい人と付き合えばいいとおもいます。しかし、諦めていないので、破局したら、私と付き合ってください。」
「破局したら、よろこんで。」
ゴキッ
「ぐわあああぁ。腕の間接がー。さては美波かー。あれ？美波じゃない。秀吉が、そんな訳するはずがないよ。」
「いいや、わしじゃ。すまぬ、明久が破局後の話をしてたから、つい。明久、わしのことときらいかのぅ？」
明久が秀吉を抱きしめて頭を撫でながら言う
「僕は秀吉を嫌いにならない。ずっと、秀吉を愛している。」
「「「天然たらしだな。」」」
「なんで、僕がたらしなの？」
「「Ｂクラス戦についてだが、」」
「待てぃ、僕と秀吉はもちろん一緒だよね？」
「「当然だ。」」
「緋色はバスターライフルで敵を掃討する。ある程度減らしたら、補給試験に行ってこい。」
「了解。」
「デュオは緋色の補給中に突破してくれ。そして、追いつめたら緋色と一緒にクラスの壁にヒビをいれ、明久が奇襲する。」
「よっしゃー、斬って斬って斬りまくるー！」
「それ、怒られるのは、僕だよね？」

第２３話（第２３問）処刑と作戦会議と僕の関節（後書き）

早くて次からＢクラス戦です。

第２４話（第２４問）作戦会議と嫉妬と処刑（前書き）

作戦会議編？第２弾スタート。
同時に書いている。僕と親友と召喚獣も宜しくお願いします。

第２４話（第２４問）作戦会議と嫉妬と処刑

第２４問
「でも、怒られるのって、僕だよね？」
「だが、秀吉の看護がある。」
「この僕にまかせろ。」
「そういえば、お前の好みは、巨乳でポニーテールじゃないのか？」
「それは、二次的な趣味で、現実はちがうからね。秀吉。」
「なら、キスしてほしいのじゃ。」
「なんで、そうなるの？」
「わしの事きらいかのぅ？」（涙目＋上目遣い）
「違うよ。僕は、周りに誰もいないならいいけど、」
「「みんな、明久と秀吉を置いて解散！」」
戦争　開始前
「根本には彼女がいる。皆憎くないか？」
「「「殺せえぇー」」」
「一緒にいちゃつきながら飯を食べているんだぞ！」
「「「なんだってーーー！」」」
「しかも、昼飯は彼女の手作りだ！」
「「「彼奴を殺してやる。」」」
「皆、だから、緋色に敵陣に穴を開けてもらいデュオが切り開く。
その後に突撃してくれ。報酬は、根本の破局だ。」
「「「「「イエス、マイロード！」」」」」
「よし、根本を処刑するぞー！」
「「「「うおおおぉぉぉ」」」」

第２４話（第２４問）作戦会議と嫉妬と処刑（後書き）

報酬すごいですね。次回クラスＢ戦スタート

第２５話（第２５問）敵代表と死神と堕天使（前書き）

クラス戦スタートある程度省略して書かせていただきます。

第２５話（第２５問）敵代表と死神と堕天使

第２５問
緋色ｓｉｄｅ
廊下
「二年Ｆクラス緋色由比が此処にいる生徒すべてに物理勝負を申し込みます。サモン」
緋色由比　Ｆクラス
物理８３７点
「ターゲットロックオン。破壊する。」
Ｂクラス生徒　１０人　戦死
「なんだ、あの化け物、退けー」
「遅い」
バスターライフルから熱戦がでる。
Ｂクラス生徒１０人　戦死
　クラス教室前廊下
「緋色、俺にも仕事くれよ。」
「なら、お前がやれおれは先にいくぞ。」
デュオｓｉｄｅ
「了解。こちらデュオ・マックスウェル斬って斬ってきりまくるー！此処にいる生徒全員に数学勝負を申し込む。サモン」
デュオ・マックスウェル
数学　７６８点
「彼奴、化け物だ！」
「俺をみた奴はみんなしぬぜー。」
「消えた！」
「死神様の御通りだー！」
ぎゃー×１５
「戦死者は補修ー！」

「ご苦労さまです。ガトー小佐」
「ああ、デュオ、がんばるんなだな。」
「さて、緋色の場所にいきますか。」

第２５話（第２５問）敵代表と死神と堕天使（後書き）

次回Ｂクラス戦決着の予定です。

第２６話（第２６問）敵代表と女装と漁夫の利（前書き）

Ｂクラス戦決着の予定。

第２６話（第２６問）敵代表と女装と漁夫の利

第２６問
緋色ｓｉｄｅ
「戦争終了ーー！」
「「早いよ！」」
Ｂクラス教室
「戦後対談と処刑の時間だ」「「「根本を殺せー！」」」「みんな、待つんだ。対談が終わって用事を済ませた後だ。クラスの皆さんも一緒に殺りませんか？」
「喜んで。」
全生徒が声を重ねて言う。ところで用事とはなんだ。
「雄二、ところで用事とは？」
「根本の女装写真集の撮影と女装したままＡクラスに戦争の準備があると伝えてこい。」
「誰が…」
「しない場合には、畳と卓袱台だ。」
「雄二、俺は帰っていいか？」
「ああ。秀吉と明久も帰っていいぞ。」
「後は任せるね雄二。」
気持ち悪いものを見たくないので急いだ。
Ａクラス
「優子、一緒に帰らないか。帰るなら急げ！」
「緋色！一緒に帰ろ」
といって抱きついてくる。
「お見舞いにも行くが、いいな？」
「うん♪でも、なんで急いでいるの？」
「女装した根本が来る。」
この一言で優子が凍り付いた「優子、いくぞ！」

急いでリリーナのいる病院に急いだ。

第２６話（第２６問）敵代表と女装と漁夫の利（後書き）

Ｂクラス戦決着。Ｃクラスは、根本の女装写真で片づけました。

第２７話（第２７問）緋色と優子とリリーナ（前書き）

なんか、放課後の話はながくなりそうですが、少しでも短くしようとおもいます。

第27話（第27問）緋色と優子とリリーナ

第27問
緋色side
「優子、掴まれ。」
「うん。ところで、今から会う人ってどんな人？」
「リリーナ・ドーリアンと言えば分かるか？」
「あのドーリアン外務次官？」
「ああ。」
「なんで、緋色はそんな人のしりあいなの？」
「元クラスメートであり、俺を変えた奴だからだ。」
「なら、ドーリアン外務次官の事好きなの？」
「ああ、だが、お前に会う前までだが。」
「ついでにいえば、リリーナの兄はゼクスだ。」
「マーキス先生が？ところで、なんで呼び捨てにしてるの？」
「彼奴とは地球の命運をかけ戦った奴だからだ。彼奴はホワイトファングの指令官だったしな。」
「ふーん」
病院　とある一室
ゼクスside
「リリーナ、いるか？」
「緋色、患者は基本病室にいるでしょ。」
「「その声は、緋色と木下か？」」
「木下？誰ですおにいさま？」
「学園の生徒だ。」
「すみません。マーキス先生。団らんの邪魔をしてしまって。」
「緋色、余計なことを教えるな。ところで、木下、お前と緋色の関係は？」
「気にするな、ゼクス、単なる恋人だ。」

「単なるですまない気がするが、お前に恋人とはな。」
「お前だって妻がいるじゃないか。」

第２７話（第２７問）緋色と優子とリリーナ（後書き）

ゼクスと緋色ってこんなに仲が良かったでしょうか。
感想、アンケートをお待ちしています。

第２８話（第２８問）ゼクスとノインと夫婦関係

第２８話
ゼクスｓｉｄｅ
「物理のルクレツァ・ノインだ」
「決着を付けるぞ、緋色。」
「ゼロの予測では、お前に未来はない。」
「先生、緋色静かにしてください。」
「「すまない。」」
「ところで、夕飯食べてないだろ？何処か食いにいかないか？」
「ノイン、私だ。回転寿司の予約をとっておいてくれ。そこに、トーラスがあったはずだ。」
「なぜ、回転寿司？」
「一度、行ってみたかったんだ。」
「奇遇だな。俺もだ。」
「でな、リリーナ帰らせていただく。」
外
「すみません。手伝ってもらっていたら、遅くなって夕食を食べさせて送るので。緋色？いますが、はい、わかりました。」
「では、行くか。」
「この車、まるでトールギスだな。」
「ああ、肝臓が潰れかけたことや、オットーを思い出す。」
「それ、冗談ですよね？」
「真実だが、気にするな。緋色、そういえば、残り三人が転入するらしい。」
「なに？本当か？」
「一週間後だがな。」
「まさか、トレーズは教師じゃないよな？」
「あいつが死んだのをみたはずだ？」

第２８話（第２８問）ゼクスとノインと夫婦関係（後書き）

さすがに、トレーズは無理ですね。優子が二人の会話から取り残されている

第２９話（第２９問）ゼクスと緋色と回転寿司（前書き）

もうじき、連載三十話。
ふつつかものですが、よろしくお願いします。

第２９話（第２９問）ゼクスと緋色と回転寿司

第２９話
ゼクスｓｉｄｅ
「緋色と木下、回転寿司という店はなにがでてくるんだ？」
「寿司という食い物が回ってくるんじゃないか？」
「寿司とは、なんだ？」
「寿司は、魚などをご飯の上にのせて食べるものです。」
「おいしいか？」
「ええ。日本文化の代表の一つですから。ところで、先生は何処からきたんですか？」
「木下、その話を聞くには条件がある。一つは、誰にも話さないこと。そして、もう一つは、驚かないことだ。」
「私の本名はミリアルド・ピースクラフト。サンクキングダムの王子だ。」
「完全平和主義のくにですよね？」
「ああ、そのとおりだ。」
「そろそろ、着くようだ。」
「ノイン、すまないな。待たせてしまって。」
「はい、１０分２７秒の遅刻です。」
「では、入ろうか。すまないが、木下、いろいろ教えてくれないか？」
「分かりました。着いてきてください。」
私は今日、はじめて回転寿司について理解した。
「デュオ達がいるので、軽く宴会でもしましょう。ゼクス。」
「今日は私の奢りだ。」
小宴会が始まった。

第２９話（第２９問）ゼクスと緋色と回転寿司（後書き）

次回は宴会の前にキャラ紹介３をしようと思います。

第３０話（第３０問）兵士と平和と小宴会（前書き）

連載三十話。これからもよろしくお願いします。

第３０話（第３０問）兵士と平和と小宴会

第三十問
緋色ｓｉｄｅ
「なあ、優子？寿司屋って宴会する場所なのか？」
「私の中じゃ違うけど。」
「よお、緋色！なんだ彼女さんと一緒か？」
「「緋色に彼女だと！」」
「緋色に彼女だってー！」
失礼すぎるぞ。
「デュオ、冗談がすぎるぞ。」
「そうだよ、お前を殺すとか、自爆するとかばかり言う人に彼女が居るわけないじゃないか。」
「お前らしくない。」
「だが、残念だねえー、いつもみたいに酒を飲みたかったんだけどね。」
「そんなことしてるんですか？」
「うん、そうだよ。僕はカトル・ラバーバ・ウィナー、よろしく。」
「トロワ・バートンとでも名乗っておこう」
「俺の名は張五飛だ。宜しく頼む。」
「木下優子です。宜しくお願いします。」
「木下、お前も飲め。」
「でも、」
「優子、飲まないなら、口移しでも入れるぞ。」
「分かった。飲むわよ。」
「では、平和になったことの喜びに乾杯！」
「「「「「「「かんぱーい！」」」」」」」
宴会が始まった。

第３０話（第３０問）兵士と平和と小宴会（後書き）

どうも、作者です。アンケート、意見、感想をお待ちしています。

第３１話（第３１問）堕天使と酒と優子（前書き）

僕と親友と召喚獣もよろしくお願いします。

第３１話（第３１問）堕天使と酒と優子

第３１問
緋色ｓｉｄｅ
「木下、飲まないのか？」
「いや、人が多くて、飲みづらいですから。」
「気にするな。おい、カーンズ！ワイン一本追加だ。」
「分かりました。ミリアルド指令。」
「今は、マーキスさ。」
「優子、のまないなら…」
「飲むわ。」
一気に飲み干した。待て、これとても、アルコール強いぞ。
「ゼクス！計ったな！」
「何の事だ？」
「貴様が…」
「緋色♪」
優子が抱きついてくる。
「口移ししてよ♪それかキスしましょう♪」
「緋色も隅に置けないねー」
「デュオが言えることじゃないよ。」
「五飛も早く彼女を作った方がいいんじゃないか？」
「俺には、立派な妻がいた。そいつを裏切る事は出来ない。」
「へー、そうか。ところで、緋色、木下さんはどうするんだ？また、お姫様だっこか？」
「たぶん、そうなる。」
バタン　優子が倒れる。
俺はそれを支える。
「ゼクス、優子が酔っているから今回はもう帰らせてもらう。」
「ああ。眠ってるからって襲うなよ。」

「貴様じゃあるまいし。それじゃ、また明日。」
優子を連れて自分の家に帰った。優子はちゃんと家に送って。

第３１話（第３１問）堕天使と酒と優子（後書き）

次、Ａクラス戦の予定。感想もお願いします。

第３２話（第３２問）堕天使とバカと木下家（前書き）

今回は木下家の朝のお話です。

第３２話（第３２問）堕天使とバカと木下家

第３２話
緋色ｓｉｄｅ
朝はなにもなく、俺は優子を迎えにいった。
木下家
「優子、いるか？」
「優子はまだ寝てるわ。緋色君起こしてきてくれない？」
「分かりました。」
優子の部屋
「優子、入るぞ。」
とりあえずいっておこう。起きてた時があれだから。
「優子、起きろ。」
「あと五分。」
デュオのモーニングコールをぱくるか。
「早く起きないと添い寝するぞ。」
「え、緋色？どうして此処にいるの？」
「彼女の部屋に彼氏がいたらおかしいか？」
「おかしいわよ！」
「おはよう、優子。お前の母親に起こせといわれたからだ。」
「ふーん。おはよう、緋色。」
「俺は下で待っている。準備が終わったら来い。」
木下家　リビング
「なんだ、明久、お前もいたのか。」
「緋色、なんで此処にいるの？」
「それは、こっちの台詞だ。」
「え？僕は秀吉の家に泊まったからだよ。」
「おい、秀吉の母親に乗せられたか？」
「うん。気づいたらキスしながら寝てたよ。」

「すごいな、おい。」
「「二人ともお待たせ（なのじゃ）。」」
彼女が来た。
「明久、一緒に逃走しないか？」
「逃走？誰から？」
「クラスメイトからだ。優子、今日も横抱えでいくぞ。」

第３２話（第３２問）堕天使とバカと木下家（後書き）

予告通りになりませんでしたね。次回、登校中のお話。

第３３話（第３３問）堕天使とバカと処刑（前書き）

地獄の鬼ごっこみたいな感じになるとおもいます。

第３３話（第３３問）堕天使とバカと処刑

第３３話
緋色ｓｉｄｅ
「優子、これを使って切り抜けるぞ。」
「うん。ところで、これ何？」
「ビームサーベルを人の大きさに合わせた感じだ。安心しろ、負うのは火傷ぐらいだ。明久、秀吉、お前らの分だ。」
「「安心できないんだけど。」」
「さあ、いくぞ。俺に着いてきてくれ。」
「早速か。邪魔だ。」
「ぎいやあああああ」
久々に聞くと悪くないな。
「緋色！吉井！てめえらのせいで俺の木下ハーレム計画が崩れたじゃないか。」
「言いたいことはそれだけか？ターゲットロックオン、破壊する」
「ぐわあああああ」
「死ねエイイイイ！」
「よし、行くぞ、学園は近い。」
「「「うん。」」」
文月学園
「「「西村先生、おはようございます。」」」
「西村先生、おはようございますなのじゃ。」
「おう、緋色夫妻と、吉井夫妻おはよう。」
「「なぜ、貴様がそれを知っている！」」
「冗談だったが、本当だったのか。」
「「先生が冗談を言うなんて珍しい。」」
「まあ、恋愛については、何も言わないが、なまけるなよ。」
「「「分かりました。」」」

「了解なのじゃ。」
Aクラス前
「じゃあ優子、後でな。」
「うん。」
俺達はFクラスに向かった。

第３３話（第３３問）堕天使とバカと処刑（後書き）

次回Ａクラス戦の予定です。感想を宜しくお願いします。

第３４話（第３４問）転校生と戦争と処刑（前書き）

Ａクラス戦の予定です。転校生は事前に出しています。

第３４話（第３４問）転校生と戦争と処刑

第３４話
Ｆクラス
緋色ｓｉｄｅ
「今日、男子の転校生が三名来ます。入ってください。」
「俺の名は吐露話・バートンとでも覚えていてくれ。」
「僕はカトル・ラバーバ・ウィナーです。宜しく。」
「俺は張五飛だ。宜しく頼む。」
「「お前等、来るの早すぎだ！」」
「こいつ等も元ガンダムのパイロットだ。」
「「「なぜそれを！」」」
「雄二の知り合いにハワードのじいさんがいるんだよ。」
「そうゆう事だが、置いといて、俺達はＡクラスに戦争を仕掛ける。勝つために俺が翔子と一騎打ちをする。」
「コイツはトレーズとでもつながっているのか？」
「五飛、それは違う。彼奴の戦略眼はゼクス並だ。」
「ほう。それは見物だな。」
「クラスに交渉しにいく。ガンダムのパイロットと吉井夫妻は着いてこい。」
「吉井をころせーーー！」
「待つのじゃ、明久に何かした奴はコイツで斬らせて頂くのじゃ。」
「緋色、女子になんてもの持たせてるんだよ。」
「御身用だ。ちなみに、雄二と学年主席は両想いで婚約者だ。」
「坂本を殺せーーー！」
「いくぞ。明久、秀吉。」
「雄二と言う奴はあのままでいいのか？」
「吐露話、心配するな。彼奴と明久は伊達じゃない。」

第３４話（第３４問）転校生と戦争と処刑（後書き）

次回交渉のお話です。
感想を待ってます。

第３５話（第３５問）代表と交渉（前書き）

今回は交渉のお話です。

第３５話（第３５問）代表と交渉

第３５話
緋色ｓｉｄｅ
「先にＡクラスに行くぞ。彼奴なら後から来るはずだ。」
「彼女に会いたいから？」
「彼女って優子さんだよね？えっと…」
「明久とよんでよ。カトル君。」
「カトルでいいよ。僕らは常識がない人間だから、呼び捨てでいいよ。」
「理由になってないと思うけど、カトルの言うとおりだよ。会ったことあるの？」
「昨日、ちょっとね。」
「明久、カトル、置いていくぞ。」
「「待ってよ。」」
Ａクラス
「緋色、会いたかった。」
「どんだけ寂しがり屋なんだ、お前は。」
「君が優子の彼氏君？」
「ああ。お前は誰だ？」
「工藤愛子だよ。宜しくね。保険体育の実技が得意だよ。」
「デュオ、保険体育って何だ？」
「運動とかじゃねえの？」
「そうなのか？優子？」
「ええ。というより話を進めましょ。」
「代表同士の一騎打ちを提案する。」
「雄二！いつからいたの？」
「断るわ。なら、５対５にしましょ。いいでしょ、代表？」
「いい。だけど勝った方が言うことを聞くことこれが条件。」

「分かった。その条件をのもう。今から始めていいか？」
「こっちはいいわ。」
「明久、クラスメイト達を呼んでこい。」

第３５話（第３５問）代表と交渉（後書き）

次回Ａクラス戦スタート

第３６話（第３６問）緋色と優子と一回戦　（前書き）

今回は第一回戦のお話です。

第３６話（第３６問）緋色と優子と一回戦

第３５話
緋色ｓｉｄｅ
「これよりＡクラス対Ｆクラスの試験召喚戦争を開始します。選手は前に。」
「俺が出る。」
「任せた緋色。」
「任された。」
「Ｆクラス緋色由比、数学勝負をします。サモン」
「木下優子が受けます。サモン」
緋色由比　６７８点
木下優子　３６２点
「ええ！」
「どうした、おかしかったか？」
「悪いな、優子。すまない。」
「ターゲットロック破壊する。」
「え？」
緋色由比　５３６点
木下優子　　１点
「ギブアップする。」
「え？」
「おれはあの子とあの子犬のような人は存在してほしくない。俺のせいで優子や関係ない人間が不幸になるのはおかしいからだ。これが降参の理由だ。」
「緋色、ありがと。」
「勝者Ａクラス」
「すまない、俺のミスで」
「大丈夫だよ、緋色。ほかの人ががんばってくれるさ。」

第３６話（第３６問）緋色と優子と一回戦　（後書き）

Ａクラス戦第二回戦を次書きます。

第３７話（第３７問）バカと左手と捨て駒（前書き）

二回戦スタート

第３７話（第３７問）バカと左手と捨て駒

第３７話
緋色ｓｉｄｅ
「第二回戦を始めます。選手は前へ。」
「明久、お前の本気をみせてやれ。俺は信じている。」
「やれやれ、それは僕に本気を出せっていうこと？」
「ああ、もちろんだ。」
「Ａクラス久保利光、現代国語勝負をします。サモン」
「Ｆクラス、吉井明久サモン。実は僕、左利きなんだ。」
Ａクラス久保利光　３２１点
Ｆクラス吉井明久　　６２点「ぐふあああああ！」
「みんな、今から本気で行くぞ！」
「信用してたんじゃないの？」
「してたさ。捨て駒として。」
「明久、大丈夫かの？」
「僕の味方は、秀吉だけだよ。」
「俺達は？味方か？」
「もちろん味方さ。いう必要がないじゃないか。」
「明久、わしとは心が通じあえないのかのう？」
「何いってるんだい秀吉、君とは人生の二人三脚を始めたばかりなんだ。あの５人より大事だからいったんだよ。」
「嬉しいが、人前では照れるのじゃ。」
「「「先生、女たらしがいます。」」」
「どこがたらしなのさ。」
「とりあえず同点になるまでがんばろう。」
「待って、無視なの？」
「明久、秀吉と保険体育の補修に逝ってこい。」
「おい雄二、それは次の試合が学年１エロい男子対エロい女子だか

「ら

第３７話（第３７問）バカと左手と捨て駒（後書き）

次回三回戦とたぶん四回戦を書きます。
感想をお待ちしております。

第３８話（第３８問）論理派と実技派と保険体育（前書き）

四回戦もいけたら書きます。

第３８話（第３８問）論理派と実技派と保険体育

第３８話
緋色ｓｉｄｅ
「これから三回戦を始めます。選手は前へ。」
「…俺に任せろ。」
「…クラス土屋康太保険体育勝負を申し込む。」
「僕も保険体育得意なんだよ。君と違って実技でね。」
ぶふあああああああ
「ムッツリーーニ！大丈夫？今医者を呼ぶから。」
「君か緋色君が交代する。保険苦手そうだね。よければ教えるよ、実技でね。」
ぐほあああああああああ×２
「明久にはわしがいるから必要ないのじゃ。」
「そうよ。緋色には永遠に来ないから。」
「早く始めてください。」
「「サモン。」」
土屋康太　５７２点
工藤愛子　４６８点
「加速。」
土屋康太　５２４点
工藤愛子　０点
「勝者Ｆクラス」
「そんなこの僕が」
「工藤さんだよね、あの勉強教えてくれないかい？」
「僕なんかでいいならいいけど、何で？えっと…」
「カトルだよ。君はクラスの中で一番楽しそうにしてるからだよ。」
「なら放課後に校門で待っててね。」
「うん。」

第３８話（第３８問）論理派と実技派と保険体育（後書き）

次四回戦いく予定です。

第３９話（第３９問）Ａクラスとｆクラスと戦争（前書き）

四回戦スタート

第３９話（第３９問）Ａクラスと Ｆクラスと戦争

第３９話
緋色ｓｉｄｅ
「これより四回戦を始めます」
「姫路瑞希行きます。」
「佐藤美保が受けます。」
「「サモン」」
佐藤美保　３６２点
姫路瑞希　４５２点
「勝者Ｆクラス。」
「これで同点だ。雄治、任せたよ。」
「Ｆクラス代表の坂本雄治だ。教科は日本史で小学生レベルの上限ありだ。」
「霧島翔子、受けます。」
「分かりました。問題は用意しています。教室を変えてします。不正行為は無得点扱いです。では、始め！」
テスト中

「結果発表をします。霧島翔子９７点。坂本雄治５３点。勝者、Ａクラス。」
「殺せ。」
「落ち着け、雄治、いくら交際相手がヤンデレだからって。俺はお似合いだと思うが。」
「緋色はいい人。雄治、今からデートに行く。」
「告白すらないのか…ぐふあああ。」
「優子、お前の願いはなんだ？今日から一緒に暮らしましょう。」
「「「緋色を殺れー！」」」
「優子、逃げるぞ。だがおやが許可したのか？両親に挨拶すらして

ないが。」
「うん。今から行きましょう。」
クラスの負けで戦争は終わった。

第３９話（第３９問）Ａクラスと Ｆクラスと戦争（後書き）

次の次あたりに吐露話などの自己紹介行こうと思います。

第４０話（第４０問）緋色と優子と優子の両親（前書き）

オリ話の予定です。清涼祭前にいくつか話を入れようと思います。

第４０話（第４０問）緋色と優子と優子の両親

第四十話
緋色ｓｉｄｅ
インターホンを鳴らして待つ
「待ってください。あら、優子、緋色君。どうしたの？」
「えっとね、お母さん、話があるの。」
「同棲なら普通にいいけど、緋色君の家の人に迷惑がかかるんじゃ。」
「大丈夫です。一人暮らしですから。」
「その代わりに日曜日には二人でこの家で過ごしなさい。これが条件。お父さんも喜んでいたのよ。腐女子に彼氏が出来て。」
「引っ越し会社に連絡しとくわ。後でいくから。」
「こんな簡単に許可されていいものなのか？」
「さあ？それより行きましょ。夢の同棲生活。子供の名前はどうする？」
「飛びすぎだ。落ち着け。」
「分かったわ。とりあえず行きましょ。」
緋色の家
「優子は料理できるのか？」
「出来ないわよ。」
「なら、教えてやる。」
「すまない、電話だ。」
「もしもし、緋色ですが。明久？どうした？秀吉が同棲しようって言い出した。すまない、優子のおやがあっさり許可してくれたからみたいだ。」
「「お互いがんばろう。幸運を祈る。」」
「八時に公園集合だ。」
「分かったよ。ばいばい。」

同棲生活スタート

第４０話（第４０問）緋色と優子と優子の両親（後書き）

次回キャラ紹介。
感想待っています。

キャラ紹介　3（前書き）

おきにいり登録が八件あって驚いています。ご期待を裏切らないように努力したいと思います。

キャラ紹介　3

キャラ紹介
吐露話バートン（トリトン？元ヘビーアームズのパイロット）
身長　原作より伸びている
体重　変化なし
髪　色は同じで髪型は原作より少し短め
目　原作と同じ
性格　原作と同じ
ヒロイン候補　小山友香
召喚獣　ヘビーアームズのような奴。
武器　アーミーナイフ（腕についてるナイフ）
腕輪　ガトリング　１０秒に３０点消費
ミサイル　１０発　２０点消費
フルオープンアタック（一斉射撃）一回百点消費

伽兎流・ラバーバ・ウィナー
身長　変化なし
体重　変化なし
髪　変化なし
目　変化なし
性格　他利愛・下手したら暴走（黒カトルみたいに。詳しくは新機動戦記ガンダムWのゼロと呼ばれたGを見れば分かると思います）
召喚獣　サンドロックみたいな奴でヒートショーテルが武器（長いナイフ）
腕輪　召喚　一体につき１０点消費
張五飛
外見　身長以外変化なし
性格　正義感が強すぎる

召喚獣　シェンロンガンダムみたいで、武器はビームグレイブ
腕輪　ドラゴンハング　一回１０点
火炎放射　一回３０点

キャラ紹介　3（後書き）

ちなみに張五飛とはチャン・ウーフェイと呼びます。分からない単語があったら感想か何かで送りつけてください。前書きか後書きでお答えします。感想も一緒に送ってくださると嬉しいです。ちなみに質問を前書き等で答えるのは同じ質問が来ないようにするためです。なんか長くなりました。すみません。感想、レビュー、質問、お待ちしております。

第４２話（４２問）堕天使と優子と甘い生活（前書き）

五十話連載記念に何か書こうと思ってます。

第４２話（４２問）堕天使と優子と甘い生活

第４２話
緋色ｓｉｄｅ
「優子、明久と秀吉呼ばないか？」
「いいわよ。別に。」
「こちらレッドワン。ブルースリー応答を願う。」
「こちらブルースリー、通信どうぞ、ビルゴを連れてこい。」
「了解。」
ビルゴとは秀吉のことだ。
「ほかに誰か来るの？マックスウェル夫妻とマーキス夫妻を呼ぼうと思う。」
「分かったよ。三分でついてみせる。」
　電話中　マーキス夫妻とマックスウェル夫妻へ
数分後
「お邪魔します。」×４
「邪魔するぞ。」×２
「「バカ代表どうして貴様が此処にいる？」」
「呼ばれたからです。ところで、何で呼んだの？」
「ゼクス、デュオ、ノイン、持ってきたか？」
「もちろん。」
「明久、今日は飲むぞ。」
「まさか酒？まじで！」
「ああ、伽兎流はデート、五飛と吐露話はなんとなくだったが。」
「今日もめでたいしな。」
「「何がだ？」」
「二人の同棲が決まったからじゃないのか？」
「「否、断じて否！」」
「酒飲んでいいの？」

「教師がいいと言ってるから気にするな。飲まなかったら、秀吉の口移しで飲ませようと思ったが。」
「それ、昨日と台詞が一緒よ。」
「しかし、姉上がよく酒をのめたのが意外じゃった。」

第４２話（４２問）堕天使と優子と甘い生活（後書き）

この飲み会が終わったら学校のプールじゃなく川に行った話にしようと思います。

第４３話（４３問）酒と飲み会と酔い　（前書き）

アニメみたいにするか、小説のようにしようか待ってます。川の話を終わらせてから。

第４３話（４３問）酒と飲み会と酔い

第４３話
明久ｓｉｄｅ
「「「「「かんぱーい。」」」」」
「酒は初めてか？吉井。」
「もちろん、初めてですよ。」
「注文を取りたいんだが、特上を三つ、五分で来い。」
「誰なの緋色？」
「寿司屋だ。明久が栄養失調だろうから。」
「「ほう、面白い奴だな。基本は塩水か？」」
「そのとおりです。しかし、彼女がいるから改めましたけど。」
「明久の家は苦しいのか？」
「デュオ、それは違うのじゃ、趣味で食費を割いてまでゲーム等を買ってたからじゃよ。」
そのとおりさ。
「「「「さすがバカ、やることが違うな。」」」」
「待ってよ、僕は学力はもうＡクラス並だよ。」
「優子、飲まないのか？飲まないなら強制的に口に流し込むぞ。」
「秀吉もだよ。」
「ちょっと待って二人とも、さすがにそれは。」
「お願いね緋色。」
「頼んだのじゃ明久」
「「わかった。」」
「明久、ひとつ忠告する、木下家は酒に弱いらしい。」
「あきひさー。」
やばいマジで酔ってる

第４３話（４３問）酒と飲み会と酔い　（後書き）

今回明久視点で書きました。ヒルデが久々に喋った気がします。質問、感想、お待ちしています。

第４４話（４４問）酒と飲み会と優子　（前書き）

遅れてすみません。ところでユニークというものについて書いていましたが、どういう意味なんですか？

第４４話（４４問）酒と飲み会と優子

第４４話
緋色ｓｉｄｅ
「優子、飲んだらどうだ？」
「あたしが暴走したら緋色にまた迷惑がかかるじゃない。」
「気にするな、というより、明久は慣れだしてきてるぞ。」
「先生、もうないんですか？」
「「お前がたくさん飲んだからないに決まっている。」」
「明久、お前はそろそろ帰ったほうがいいぞ。」
「何で？」
「優子が暴走するのもあるが、お前の妻が大変な事になってるからな。」
「秀吉、待って。服を脱ぎだすなんてやめてよ、ほかの人がいるから。」
「明久、俺達はそこらへんは大丈夫だが、お前がやばいぞ。」
「では、お開きにするか。」
「緋色ー、二次会しようぜー」
「無理だな。優子の世話があるし、子供の名前は考えなくていいのか？」
「わかったよ、帰るよ。いこうぜ、ヒルデ。」
「それじゃ、二人とも。また来週！」
「ああ、死ぬなよ。」
「りょーかい。」
マックスウェル・マーキス夫妻帰りました。
「優子、大丈夫か？」
「だいじょーぶよー、ひーろ。」
やばいなにされるか分からない、寝るか。
「俺はシャワーを浴びて先に寝てるぞ。」

「あたしも一緒がいー。」
「分かった、早く行くぞ。」
「うん♪」
風呂では何もなかった。

第４４話（４４問）酒と飲み会と優子　（後書き）

次はプールの代わりに川に行く予定です。もちろん、緋色たちが。

第４５話（４５問）川とカップルと処刑の時間　（前書き）

投稿できずすみません。こういう事があると思うのでご了承ください。

第４５話（４５問）川とカップルと処刑の時間

第４５話
緋色ｓｉｄｅ
「こちらレッドワン、ブルースリー起きてるか？通信を願う」
「こちらブルースリー、ビルゴと食事中。用件どうぞ。」
「何処か行かないか？明久？」
「川はどうかな？」
「おもしろい、おれはデュオとかに連絡する、雄二達には任せた。後で連絡を頼む。」
「優子、起きろ。」
「待って緋色ー、後五時間。」
「なら留守番任せた。俺は出かけてくる。多分夜までかかるだろう。」
「待って緋色、置いていかないで。」
「早くしろ。」
明久の家
「「お邪魔します。」」
「緋色にお義姉さん。どうぞ。」
「緋色、吉井君、二日酔い？」
「彼奴の妻の姉はお前だ、間違ってかない。」
「おはよう雄二と愉快な仲間達。」
「扱い酷くない？」
「それでは行くか。」
「おい、ゼクス。」
「何だ緋色？」
「カーンズが居酒屋をやってるらしい。吉井夫妻と共に一杯やるぞ。」
「そうだな。まず、それは後からだ。」

第４５話（４５問）川とカップルと処刑の時間　（後書き）

オリ話スタート

第４６話（４６問）川と水着と生体兵器　（前書き）

カーンズが生きているそうです。緋色曰く

第４６話（４６問）川と水着と生体兵器

第４６話
緋色ｓｉｄｅ
メンバーは俺、優子、明久、秀吉、デュオ、ヒルデ、雄二、霧島、姫路、島田、ムッツリーニ、ゼクス、ノインだ。
「男子は待つことになるんだよなー。ところでムッツリーニは大丈夫なの？」
「問題ない。９９８１２通りのシュミレートし、すべて出血した。」
「安心しろ、楽にいかせてやる。」
「最初の人来たみたいだよ。」
「ムッツリーニ、どうした？」
「あれ、パッド。取ってくる。」
「アキー、キャッ」
「第二次成長期を弄ぶなど許さない。」
「ゼクス、ノイン、ところで泳がないのか？」
「必要ないからだ。」
「なぜ来た？」
「飲み仲間は多い方がいい。」
「緋色ー。」
「どうした、優子？」
「おかしくないわよね？」
「そのままでいてくれ。」
「どうして？」
「写真に納める。」
「待て緋色、それは犯罪だ。」
「分かった。」
ちなみに優子は白のビキニである。
「なにがあった？雄二の眼に。」

「霧島さんに…ぶっふおあ！」
「明久、ムッツリーニ、どうした？」
「「生体兵器が。」」

第４６話（４６問）川と水着と生体兵器　（後書き）

第４９話には何かしようと思います。物語の中で。理由はガンダムＷファンの人は分かると思います。

第４７話（４７問）川と鼻血と生体兵器　（前書き）

今回は明久視点で行くつもりです。

第４７話（４７問）川と鼻血と生体兵器

第４７話
明久ｓｉｄｅ
「すみません、紐を結ぶのに時間がかかって。」
「「ぶふおああ！」」
「優子、何が起きている、前が見えないんだが。」
「お前もか緋色、実は俺も何だ。」
「雄二、何が起きている？」
「分からん、だが俺は眼をやられた。」
「ゼクス、何が起きている？」
「説明してくれるさ。」
「緋色、あれは兵器よ。」
「何、ならば破壊する。」
「緋色、落ち着け、たぶん、精神的な奴だろ。」
「みたいだな。優子、離してくれないか？」
「分かったわ、緋色。」
「状況を確認する。」
血を噴き倒れてるバカ　二人
眼を押さえながら苦しむ坂本夫
周りを警戒してる坂本妻
呆れてるマーキス、マックスウェル夫妻
何か嘆いてる人？一人？
優子、明久、ムッツリーニ曰く生体兵器一人。
「「「こいつら、相変わらずバカだな。」」」
「明久よ、わしじゃ不満かの？」
「ごめん秀吉、待って、僕の関節で何する気なの？」
「へしおるだけじゃが？」
「だけじゃすまないと思うよ。でも秀吉の胸が当たって気持ちいい

なー。」
「明久よ、嬉しいのじゃが場所を考えてくれんかの？」
確かに僕は変態みたいだな。
「「「「お前、変態じゃ無かったのか？」」」」

第４７話（４７問）川と鼻血と生体兵器　（後書き）

明久が変態みたいですね、ファンの方すみません。次はトレーズが死んだ話数と一緒ですね。個人的にあのシーンは感動しました。知らない方はすみません。

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半）（前書き）

何日ぶりかの投稿です。今回は原作に触れようかと思います。

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半）

番外編

「えー、今回はオペレーションメテオあたりについてお話しようと思います。」

「デュオ、誰に話してる？」

「いるか分からないけど、読者だよ。原作について知らない人いると思うから。」

「にしても凄かった、ガンダムは。」

「えー、この事件はＡＣ１７５年にヒイロユイという伝説的指導者が暗殺された。」

「アディンロウという男にな。」

「詳しくは新機動戦記ガンダムＷフローズンディアドロップの一巻と二巻をご覧ください。」

「カトル、宣伝はやめておけ。」

「分かったよ緋色。」

「その後に連合が正義の名を元に圧倒的軍事力で制圧していった。そのため５人の科学者達はガンダニュウム合金で作られたガンダムをＡＣ１９５年に地球へ送り込んだ。」

「そして地上に降り立ったガンダムは各地の軍事施設を破壊していった。」

「このとき緋色はサリィのおばさんに捕まえられて、輸送され、助けてあげたのに自殺しようとしたんだぜ。」

「確かにあのときの緋色なら自殺してただろう。」

「ゼクス、お前も聞いとけ、緋色は自殺ミスで骨折、右足の骨折を力だけでなおしやがったんだ。」

「緋色、骨折治せるんだ、凄いな。」

「次回は、ガンダム達が合流する時からです」

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半）（後書き）

とりあえず五十話連載記念前に原作を少し理解してもらうためにこのような企画を立てました、五十話記念はまた別です

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半2）（前書き）

原作を振り返ろう、ということで始めましたが、次からは本編に行こうとおもいます。
はい、トレーズについて出す予定です。生きて欲しい方はどうか感想に生きたまま出せとでも書いて頂ければ結構です。

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半２）

番外編２

「そのあと、トレーズの策で皆ニューエドワーズに集まったよなー」

「ああ、あれは意外だった。」

「ワーカーについては触れないのか？」

「「「「「ワーカー？」」」」」

「まあそれをおいといて、五飛はトレーズに負け、挫折し、戦意を喪失させた。」

「そうなの、あの五飛が。」

「あのあと女に励まされたお陰で立ち直れたがな。」

「それって？」

「サリィだ。」

「サリィのおばさんが？」

「ということは、０５は女よりもガラスの心を持ってたのか。」

「だからマリーメイア軍にはいったのか。」

「ゼクス、バートンの乱は後に説明がある、それまで、ネタバレは許さない。」

「その後、トーラス輸送作戦とガンダム掃討戦が始まった。」

「だが、俺達は猛攻に耐えきれなかった上に故郷に裏切られ、科学者達が降伏した、核で狙われてたしな。」

「緋色は自爆、吐露和に拾われ、俺はカトル合流、五飛はどっかいってオペレーションメテオはスペシャルズの勝ちで幕を下ろした。」

「オットーとワーカーがいなかっただと。」

「そいつは誰だ？」

「トールギスにのり肺が潰れながらも突撃して散ったよい部下だったよ。」

「肺がつぶれたぁ？何があったんだ？」

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半2）（後書き）

原作を見ていた人は知っているでしょうが、トールギスは重装甲な上にスーパーバーニアというバックパックにより人の命が無視された反応速度を持つ強い機体で、ゼクスも最初は血を噴いたりしましたが、最終的には反応速度を越えました。トールギスについてはこの辺で。次からは本編です。感想ありがとうございます。

第４８話（４８問）川と科学兵器と最速王者決定戦。（前書き）

最近、睡魔に勝てません。
第三作目を書こうと思います。意見があればお書きください
川編は次で終わる予定です。

第４８話（４８問）川と科学兵器と最速王者決定戦。

第４８話
明久ｓｉｄｅ
「大丈夫か？明久。」
「骨折して痛いんだけど。」
「「「「なんだ、それだけか。」」」」
「みんな、それは酷いよ。」
「いやー、俺達はもと兵士だし、緋色は自分で骨折治せるしな。」
「緋色、すごいね。」
「デュオ、明久の足を持ってくれ。」
「あいよ。」
「いくぞ。」
「うん。」
ごききっ
「ぐわわあああ！」
「この位でいいか。」
「ものすごく痛いけど確かに治ってる。」
その後、数時間泳いだ。
「あの、みなさん。」
「何かな、姫路さん？」
「じつは皆さんにワッフルを作りたかったんですけど、四つ失敗して。」
「第一回」明久と雄二の声
「最速王者決定戦」緋色とデュオの声
「イェェェェ」秀吉と美波とムッツリーニの合いの手
「ルールの説明だ、明久。」
「りょーかい。単純に往復して帰ってきた人が勝ちだ。」
「いきなりどうしたんだ？」

「明日を迎えるための試練さ。」

第４８話（４８問）川と科学兵器と最速王者決定戦。（後書き）

次回生き残るのは誰か、お楽しみに。ところで、巡音ルカの紅一葉という曲はいい曲ですよね。

第４９問　川と最速王者決定戦と最後の勝利者（前書き）

私はウイングのビデオを買いに行ったことがありまして、何故か１２巻がなかったという悲劇がありました。

第４９問　川と最速王者決定戦と最後の勝利者

第４９問
緋色ｓｉｄｅ
「優子、気をつけろ、またあえることを願う。」
「どういうこと、緋色。」
「みれば分かる。姫路、自分のワッフルを食ってみろ。」
「あ、はい。」
バタッ
姫路の頭あたりから白いものが見えるが気のせいだ。
「是楠、優子、乃姻、デュオ、蛭手、行くぞ、カーンズの店に」
「緋色、大丈夫なのか？」
「問題ない、明久に愛があれば。おい、明久、愛の人工呼吸か、愛の打撃をお見舞いしてやれ。」
「緋色、それは無理、僕は秀吉がいる、だから、ムッツリーニ！」
「分かった、感謝する。」
明久ｓｉｄｅ
ドン
ありゃ、思いっきりやったな、ムッツリーニは。
「あ、康太君、ありがとうございます。」
「おまえが無事でよかった。」
うん、ピンクな空気だ、ハッピーエンドだ。
「みんな、そろそろ帰らない？ムッツリーニ達の為にも。」
「ああ、帰るか。」
「どっか、寄ってかない？カラオケにでも行こうよ。」
「…負けた奴は罰ゲーム」
「乗った！じゃあ行くか、女子勢などうする？」
「もちろん行く。」女子全員の声
さあ、カラオケに行こう

第４９問　川と最速王者決定戦と最後の勝利者（後書き）

ムッツリーニと姫路という、組み合わせは、自分でも驚きです。次は打ち上げ？です。

第５０問　宴会と打ち上げ（前書き）

五十話連載記念打ち上げ編

今後も僕と翼と召還獣をよろしくお願いします。

第５０問　宴会と打ち上げ

番外編
明久ｓｉｄｅ
「吉井明久から始めるー。」
「カラオケ対決ー」
「イエーーー！」
「ルール説明だ、明久。」
「また、酒飲みたいな、という僕の願望は叶わず、前略、坂本雄二へ。」
「なぜ、俺なんだ、明久の頭がいかれだしたので、翔子に続く。」
「歌を歌い、一番うまい人は好きな人とイチャイチャできる、という単純なルール。これでいいかな、雄二？」
「おかしい気がするが、いいだろう。」
カラオケで数時間
「帰るか、時間だしな。」
ｓｉｄｅ　ｏｕｔ
ゼクスｓｉｄｅ
「邪魔するぞ、カーンズ。」
「これは、ミリアルド指令、久々ですな、緋色、そのおまえの横にいる平らな子娘は？」
「ねー、緋色、この人の関節をすべてとらせて頂くわ。」
「落ち着け、優子、ビームサーベルで切り刻む方にしないと可愛そうだ。」
「やめ、ぐわあああああああ」
カーンズ、今回は無料でいいだろう？いやといったら。
「分かりました、指令、あなたのご意志に従います。」
カーンズが脳量子波を受け取ったか、変わったな、奴も。
数時間飲んだ後帰った。

第５０問　宴会と打ち上げ（後書き）

オリジナル話はどうだったでしょうか？だいぶ圧縮したのであまりいい出来ではないと思いますが。
次回からは学園祭に行こうと思います。
感想をお待ちしています。

第５１問　緋色と景品とオリエンテーション。（前書き）

明日からは秋ですね。
この話が終わったら、強化合宿の予定です。

第５１問　緋色と景品とオリエンテーション。

第５１話
緋色ｓｉｄｅ
「今日、何かあるのか？優子。」
「オリエンテーションがあるわよ。」
「オリエンテーション？」
「今回は宝探しみたいだけど、景品がいいのよ。」
「一体、何なんだ？また、薄っぺらい本か？」
「模擬結婚式よ♪」
「優子、また学校でたぶん会おう。」
「ちょっ、待ちなさい緋色！」
通学路
「おはよう、雄二、明久。」
「おう、緋色か、今日、何があるんだ？」
「そうだよ、緋色、秀吉がトリップしてたんだけど。」
「今日、オリエンテーションがあって、景品が模擬結婚式なんだ。」
「「かなりやばいじゃないか！」」
「それは俺も同じだ。」
「秀吉なら、即本番になっちゃうよー。」
「「俺達もだ。」」
「「「同盟を組むぞ！」」」
「「「「彼奴等を殺せー！」」」」
「雄二、ビームサーベルだ、受け取れ。」
「明久、おまえはあるのか？」
「うん、この通り。」
「一気に学園につっこむぞ！」
「「了解！」」
男子の屍を作りながら、学園に走り込んだ。

第５１問　緋色と景品とオリエンテーション。（後書き）

原作とアニメとオリジナルを混ぜながら進行させようと思います。
感想、お待ちしています。

第５２問　男子と女子とオリエンテーション。（前書き）

最近、勉強するきがまったく起きません。その分、こちらをがんばろうと思います。

第５２問　男子と女子とオリエンテーション。

第５２問
緋色ｓｉｄｅ
ホームルーム中
「えー、組み合わせは男子は男子、女子は女子で組んでくれ、クラスは関係ないからな、以上！しっかり取り組むように。」
鉄人のがなにか話ている、おれに未来があるか、不安だな。
「ちなみに問題児は集めてある。」
「なんだって！」
「良かったな、緋色、明久、同じだぜ！」
「「ああ、未来を切り開く！」」
オリエンテーションスタート
「結局は問題解くんだね。」
「当然だろ、明久、雄二、いい考えがある。」
「なんだ、緋色？」
「ウイングゼロを起動させる。」
「「それは無理だろ。」」
「明久は世界史、緋色はその他、俺は日本史を解く。」
「明らかに分配がおかしいだろ。」
「俺達は仮にもバカだしな。」
「任務了解、任務を遂行する。」
１０分後
「とりあえず、行くぞ。」
体育館
「あった、目標発見、焼き払うか？」
「せめて他の人にやれ。」
「次に行こうよ。」
「「ああ」」

俺達の未来は守られたはずだった。

第５２問　男子と女子とオリエンテーション。（後書き）

この後、強化合宿か清涼祭にするか迷ってます。ご要望等もお待ちしております。

第５３問　男子と女子とチケット争奪戦。（前書き）

最近、更新のペースがおそくてすみません。

第５３問　男子と女子とチケット争奪戦。

第５３話

「こいつは、根本、清水、久保でいいよな？緋色。」

「答えるまでもない。」

「久保君って好きな人いるの？」

「「ああ。」」

「待ちなさい、緋色、吉井君、坂本君。」

「俺達は行くべき場所があるんだ！邪魔はさせない。」

「人間は帰る場所さえあればいい。」

「吐露話、邪魔をするな。」

「悪いが、香戸留の為だ。全てを消滅させる。」

「正義は俺が決める！」

「五飛か！」

「一度、お前と戦ってみたかった。」

「明久、雄二、逝け、逝って未来を掴んでこい！」

「雄二！」

「ぐわあああああ。明久、俺達の未来、貴様に託す！」

「僕は生き残る！」

「待つのじゃ！明久。」

「ごめん、秀吉。僕はこういう小細工無しで秀吉と結婚したいんだ！」

「分かったのじゃ、明久、助太刀いたす。」

「五飛、トレーズとブントはもういない、お前は奴等を倒したんだ！」

「違う！俺と奴等は決着をつけていない。」

「だから、かつての仲間を…」

キーンコーンカーコーン。

「オリエンテーション終了！」

第５３問　男子と女子とチケット争奪戦。（後書き）

終わらせ方が無茶苦茶ですみません。次からは清涼祭です。

第５４問　僕と野球と学園祭。（前書き）

ＩＮＦＩＮＩＴＥ・Ｗ様、ご意見ありがとうございます。今回からは清涼祭編です。
台詞が多いので、台詞を減らしてみようと思います。

第５４問　僕と野球と学園祭。

第５４話
明久ｓｉｄｅ
明日からは清涼祭。いろんなクラスがお化け屋敷とか、喫茶店などの準備をしている。ちなみに僕たちは…
グラウンドで野球をしていた。
「来い、吉井。」
「勝負だ、須川君。」（雄二、サインは？）
（須川の股間にジャイロボールのストレート。）
（それをしていいの？とりあえず、信じよう。）
ビュン！（明久の投げた音）
ドスッ、グシャ！（須川君の大事な物に当たった音）
ドサッ（須川君が倒れる音）
チーン、あれ須川君？何で起きないの？
「吉井ー！」
「あの声は！」
「何をやっとるかー！」
鉄人だ。（雄二、どうする？）
（鉄人の渠にストレート、もしくは、後頭部にスライダー。）
（違うよ、雄二、助かる方法だよ。）
「吉井ー、にがさんぞー！」
ｓｉｄｅ　ｏｕｔ
緋色ｓｉｄｅ
「あいつら、馬鹿だな。」
「しかたないじゃねえか。馬鹿なんだしな。そろそろ帰ってくるぜ。」
ガラッ（扉が開く音）
ドサッ（鉄人が明久達をおいていく音）

「まだ、出し物が決まってないのは、うちだけだ。早く決めるように。」

第５４問　僕と野球と学園祭。（後書き）

少しは台詞が減らせた気がします。
感想、ご意見、ご要望、質問等、お待ちしております。

第５５問　明久とＦクラスと出し物決め。（前書き）

最近、原作を読んでいないため、おかしい場所があるかもしれません。

第５５問　明久とＦクラスと出し物決め。

第５５話
明久ｓｉｄｅ
「俺達は、野球をするぞ。明久、秀吉、進めてくれ。」
半年前ぐらいまで戦争を緋色達はやっていたから、学園祭について知らないのはわかる。５人以外は驚いていた。当然、僕も。
「雄二、おかしいよ！」
「おかしくないよな、５人とも？」
知らない人に聞いたって無駄だ、バカゴリラ！
「「「「「さあ？」」」」」
やっぱり、ダメだろ、バカゴリラ。
「明久、ちょいと面かせやあああああ。」
「望むところだ。ちょっと待ってて、準備するから。」
バカゴリラめ、気づいてないのか、こちらには霧島さんという強力な神がいる。
「もしもし、霧島さん？雄二が秀吉の胸をさわってるよ。」
「今行く。」
「てめえ、卑怯ｄ」
坂本夫妻退場
「というわけで提案がある人？」
「…写真館」
こいつはやばい。個人的には嬉しいが、秀吉が怖いし、秀吉のああいう姿は独占したいんだ。
「秀吉、こんなバカみたいな意見でも書いといてよ。」
「りょ、了解じゃ。」
やはり、秀吉もいやなんだろうな。

第５５問　明久とＦクラスと出し物決め。（後書き）

前とくらべて文字はしっかり減らせているのでこんな感じを維持したいです。
引き続き、感想、ご意見、ご要望等お待ちしております。

第５６話　清涼祭とバカと出し物決め２（前書き）

秋なのにとても暑い。
たまに投稿し忘れるかもをれません。

第５６話　清涼祭とバカと出し物決め２

第５６話
明久ｓｉｄｅ
「他には？」
とりあえず、写真館があるが危ない。誰か出してくれ。
「はい。」
「横溝君」
「俺はメイド喫茶と行きたいが、ウェディング喫茶を提案する。」
「秀吉、書いててね。」
「うむ。」
人生の墓場とも言われてる結婚、その衣装を見るだけで悲しくなる人もいるだろう。
「他には？」
「俺は、中華喫茶を提案する。食という…（以下略）」
長い。どのくらいかと言うと、３０分続いた。
「とりあえず、この辺で確認を。」
僕は驚いた。何故かというと（下を参照）
写真館
秘密ののぞき穴
ウェディング喫茶
人生の墓場
中華喫茶
ヨーロピアン
おかしいなー、なぜだろ、バカが書いたみたいだ。
「秀吉、この名前はちょっと。」
「ほう、意外じゃのう、明久は気がつかないと思ってたのじゃが。」
「遠回しにバカっていってるでしょ。」
彼女にバカ扱いを受ける人って僕ぐらいだろう。

第５６話　清涼祭とバカと出し物決め２（後書き）

緋色達は、出し物決めが終わるまで、出番がありません。
申し訳ございません。

第５７話　清涼祭とバカと出し物決め３（前書き）

ＰＶ４００００達成。今後とも宜しくお願いします。

第５７話　清涼祭とバカと出し物決め３

第５７話
ゼクスｓｉｄｅ
今、西村先生と一緒にＦクラスに来ている。そして、出し物候補が、酷すぎた。
「おまえ等、決まったか？」
「はい。」ほぼ全員の声
「「緋色、デュオ、吐露話、化取留、五飛以外は、最低補修は三倍増やさないといけないな。」」
ｓｉｄｅ　ｏｕｔ
明久ｓｉｄｅ
補修三倍？二人を倒して、補修を…「西村先生、召喚許可を。」
「どうする気だ、ゼクス？」
「世界史教師ゼクス・マーキスが吉井明久に模擬戦を申し込む。」
「ちょうどいい、貴方を倒し、鉄人を倒す！」
「すばらしい志だ。だが、私の敵ではないな。」
教師　ゼクスマーキス
世界史　１０８９点
生徒　吉井明久
世界史　１６３点
「なにぃぃぃぃ！」
「だが、そっちは慣れてないはず。」
「甘い。」
ゼクスマーキス
１０８９点
吉井明久
０点
「ゼクス、任せた。私はこのバカに補修させにいく。」

「という訳だ。おまえ等は設備を売り上げを使って上げようとは思わないのか？」
確かにその手があった。
でも、今から僕は鉄拳フルコースを食らうからしばらく関係ない。

第５７話　清涼祭とバカと出し物決め３（後書き）

次回、出し物決め、終了予定。テストの成績が悪いため、下手したら、一ヶ月ぐらい投稿できないかもしれません。

第５８話　清涼祭と転校と出し物決め（前書き）

テストがとても悪かったです。没収されるかもしれませんがよろしくお願いします。

第５８話　清涼祭と転校と出し物決め

第５８話
緋色ｓｉｄｅ
「その手があった！」
気づかないおまえ達はすごいな。
「多数決をとるぞ。」
雄二が起きている。寝てたはずだが。
「写真館がいい奴。次がいい奴。最後のがいい奴。」
早いな。
「誰も挙げなかったから中華喫茶にする。協力しろよ。しない奴は使い捨て人型装甲板になる」
さりげなく酷いことをいうな。
「雄二。」
「さらば。」
すごい早いな。是楠のトールギス並か。
「生き延びたー！」
「あの吉井君、木下さん、緋色君、少しよろしいでしょうか？」
「「別に。」」
「別にかまわぬが。」
「単刀直入にいうと美波ちゃんこ転校するかもしれないんです。」
ｓｉｄｅ　ｏｕｔ
明久ｓｉｄｅ
美波がいなくなると…
明久の回想
・美波がいなくなると暴力が減る＝平和
・清涼剤？が一つ減る＝暑苦しい＝姫路さんを巡って乱闘が起きる
＝秀吉が巻き込まれる＝迷惑だ
回想終了

「それは大変だ！」
「でも何故俺達に聞く？親の事情ならしかたないだろ。」
確かにそうだ。一体何が？
「それは…」

第５８話　清涼祭と転校と出し物決め（後書き）

微妙な所で終わらせてすみません。次回は雄二の捕獲の所です。感想、要望等お待ちしております。

第５９話　清涼祭と転校と捕獲大作戦（前書き）

ペースが結構遅いので、大会までだいぶかかると思います。

第５９話　清涼祭と転校と捕獲大作戦

明久ｓｉｄｅ
「実は、美波ちゃんの転校の理由は…」
「この教室の環境とかが問題なんだろ？」
「デュオ君！聞いてたんですか？」
「俺も混ぜろよ。」
「今度は、ミスるなよ。」
ミス？何があったんだ？
プルルルル！
僕の携帯が鳴っている、相手は…
雄二だ！よっしゃきた！
「もしもし、明久、鞄を頼む、それか俺をたすてけくれ。やめろ、翔子、ベルトを…」
たすてけ？
「「ぶわっあっはっは！」」
「聞いたか、緋色、明久、たすてけだってよ。」
今の録音したいなー。傑作だよ。
「雄二は最後にベルトがといったが何があったんだ？」
「緋色、デュオ、雄二を捕まえにいこう。」
「「雄二の苦しむ姿を近くでみたいから。」」
「だが、場所はわかるのか？」
そのくらい簡単さ。雄二は男子がいないところに隠れるに決まっている。
女子更衣室
「雄二、奇遇だね。」
「何があったら、此処で会うんだ？」
ガチャッ
ドアの音がした。その先は…

第５９話　清涼祭と転校と捕獲大作戦（後書き）

睡魔に負けなければ、もう１話いこうと思います。

第６０話　清涼祭と覗きと逃走大作戦（前書き）

僕と親友と召喚獣にユニークアクセスが抜かれてしまいました。両方自分の作品ですけどね。

第６０話　清涼祭と覗きと逃走大作戦

緋色ｓｉｄｅ
「緋色？」
優子？
「何しに此処にきたの？」
ここはごまかすしか…
「お前の体操服姿を見に来たんだ。」
しまった。やばい、嘘ついたのがばれるより…
「緋色ったら、家でならどんな格好でもしてあげるのに。」
やめてくれ、明久達の前で
「先生、覗きです。吉井君と坂本君が。」
やばいな、俺もでるか。
「優子、また放課後に。」
「うん、後で」
デュオはばれずに済んだみたいだ。
教室
１０分後
二人が帰ってきた。
「やはりその理由は…」
「三つあるな。」
吐露和が乱入してくる。
「吐露和、協力してくれるのか？」
「クラスメイト達は俺達で済ませる。」
召喚大会だったか？あれで優勝すればいいしな。
「一つ目は中華喫茶を成功させればいい。」
「もう一つは、学園長に直訴すればいいさ。」
「緋色、明久、任せた。」
俺は優子と帰るか。

第６０話　清涼祭と覗きと逃走大作戦（後書き）

アンケートをとろうと思います。
一つ目は五飛の恋人
誰かいるなら、相手の名前をいないならなしと答えて下さい。
二つ目は召喚大会優勝者です。
協力してくれるとありがたいです。期間は１３日までにしたいと思います。

第６１話　清涼祭と設備と妖怪ババア（前書き）

最近、退屈で寝てばっかりです。勉強はやる気がしないので。

第６１話　清涼祭と設備と妖怪ババア

明久ｓｉｄｅ
僕は雄二と学園長室前にいる。理由は前回話してた気がする。
ガチャ（僕がドアをあける音）
失礼しまーす（僕と雄二の声）
ニヤ（ババアと鉄人がニヤケル効果音）
ザザッ（僕らが引き下がる音）
ガシッ（鉄人に捕獲された音）
チッ（教頭の舌打ち音）
「貴方の引き金ですか？学園長。西村先生も呼んで。」
「とっと失せな、髪の分け方が犯罪物なやつに嫌みを言われる筋合いはないからさ。」
この人、やっぱり変態だ。９．５巻に詳細は…
「明久、宣伝はやめろ。」
なぜ、心の声が。
「用件はなんだい？クソジャリ。まず、名を名乗ってからにしな。」
「俺は坂本雄二、こいつが地球圏のバカ代表です。」
「原作より扱い酷くない？」
「メタ発言はやめな、クソガキ、あんたには礼儀がないのかい？用件をいいな」
「教室の環境を改ｚ…」
「却下ｄ」
「今の教室は戦争があった後、またはあんたの脳味噌なみに酷く、あんたやガンダムのパイロットじゃなきゃ生きていけねえ。」
「こちらの条件にのったらかんがえてやるさね。」
「条件は？」
「大会の優勝さね。チケットの回収をしてほしくてね。」
「「チケットー？」」

僕と雄二の目が胡麻になった。

第６１話　清涼祭と設備と妖怪ババア（後書き）

せりふが次も多くなると思います。理解ください。

第６２話　清涼祭と設備と妖怪ババア２（前書き）

昨日は投稿できずすみません。悪いのですが、小説は１８日まで休ませていただきます。理由は１８日が体育大会だからです。ご理解をおねがいします。

第６２話　清涼祭と設備と妖怪ババア２

明久ｓｉｄｅ
「で、なぜ、チケットなんです？」
「あんたらは如月ハイランドが副賞に出るのは知ってるかい？」
ふーん、知らないや。
「「知らん。」」
「そこで、良からぬ噂を聞いてね、」
噂？何だろ？
「あちらは、幸せの為のジンクスを作ろうとしていてさ…」
別に良いじゃないか。
「強制的に、結婚までプロデュースしようとしてるのさ。」
「「なんだってーーー！」」
やばい、秀吉達が絶対参加してくる。カトルやムッツリーニも。
「雄二！」「明久！」
「絶対に勝つぞ！」
「引き受けてくれるのかい？」
「「もちろん。」」
僕たちは未来が掛かっているから、断る理由がない。
「明久は帰っていていいぞ。」
なぜ、僕を捨てるんだろ？

「お前は外で待機しとけ。」
この後、秀吉と一緒に帰った。
ｓｉｄｅ　ｏｕｔ
優子ｓｉｄｅ
「ねえ、緋色、お願いがあるんだけど。」
「何だ？」
かれはあたしの彼氏の緋色、無愛想だけど優しいから好きなんだけ

ど、それは置いといて、
「一緒に試験召喚大会にｄ」
「今日の夕飯は何が良い？」
話逸らしてきた。
「なんで嫌がるの？」
あたしって嫌われてるのかな？
「おいデュオ。」
「なんだ緋色？」

第６２話　清涼祭と設備と妖怪ババア２（後書き）

今回は優子の扱いが酷くすみません。かならず、この罪は償いますから。

第一回バカテスト（前書き）

タイトルを変更しました。理由は、話とタイトルが違う気がしたからです。そして、明日、体育大会の予定でしたが、延期になりました。すみませんが、２１日までまってください。明日ぐらいは投稿しますので。

第一回バカテスト

第一問
十二月二十四日に起きた戦争は何というか、答えなさい。
緋色、デュオの解答
ＥＶＥ　　ＷＡＲＳ
ゼクスのコメント
貴様等には簡単すぎたか。
吉井明久の解答
サンタクロース争奪戦
ゼクスのコメント
少しお話があるから補修室に来なさい。
吉井明久の返答
いやです。
ゼクスの返答
なら、潰しにいく
第二問
光は波であって（　）である。（）にあてはまる言葉をいれなさい。

緋色、デュオ、吐露話、カトル、五飛の答え
粒子
ノインのコメント
簡単すぎるな。間違える奴はいないだろう。
土屋康太の答え
寄せてあげるのである
ノインのコメント
いったい何が言いたい？
吉井明久の答え
ビームサーベル

ノインのコメント

戦争はとっくに終わっている。そのような物は忘れろ。

第一回バカテスト（後書き）

バカテスト書いてみましたが、どうだったでしょうか？
テストが悪かったので更新が体育大会後は遅れるかもしれません。
ちなみに４４番でした。１１１人中です。テスト勉強はちゃんとするべきと思いました。

第６３話　バカと大会と学園祭（前書き）

更新できずすみませんでした。明日も中止なんですが、連載を再会させようと思います。

第６３話　バカと大会と学園祭

緋色ｓｉｄｅ
結果的に優子と大会に出ることになった。そして今、優子とかと登校中。
「緋色も大会でるの？」
こいつもたぶんやられただろう。
「ああ。お前は秀吉とか？」
とりあえず情報収集だ。
「いや、雄二とだよ。」
いわゆる同姓愛者というやつか。優子の好きな。
「失礼な。君は転校の話を忘れたのか？」
ああ、そういえばそういうことが…
「絶対忘れてたよね。」
学校に着いてしまった。優子と別れ、教室に向かう。
「なかなかだな。」
教室の装飾が。
「雄二はやる気をだしたらすごいからね。」
それは賛同するな。
「とりあえず、優勝は俺達がする。」
挑発を…
「僕達こ優勝しないと…」
「学園が潰れるかもしれないのは知っている。」
明久がとても驚いてる。キモイぐらいに。
「代表さんよー、接客はどうすんだ？」
こいつは意外にもこういう才能がある。
「お前のあの、励ます時の感じじゃないのか？」
あれはすごいしな。
「確かにデュオはホストクラブの店員並の接客技術があるからな。」

五飛の一言に俺、カトル、吐露話が頷く。
もう少しで一回戦だな。優子を迎えにでもいくか。

第６３話　バカと大会と学園祭（後書き）

デュオの接客については、ボイスカセット新機動戦記ガンダムＷを聞いてみればわかります。
緋「宣伝はしないほうがいいと思うが。」
そのとおりです。次回一回戦スタート

第６３話　大会と学園祭と一回戦（前書き）

明日が体育大会の為、短めに行こうと思います。

第６３話　大会と学園祭と一回戦

緋色ｓｉｄｅ
一回戦の相手はモブキャラになっている。教科は国語だ。
緋色　　４２１点
優子　　３６８点
　　ＶＳ
３ｌＦ組１　２０点
３ｌＦ組２　３０点
こいつら社会で生きていけるのだろうか？
「優子、任せた。」
優子が驚いてる。おかしいことを言ったのだろうか？
「別に良いけど、何で？」
「単なる準備運動だ。」
優子は納得しているが敵が理解してない。
ブスっ　バタッ。
一体倒れた。
「〇〇の仇ー！」
名前すらないとは意外だな。
ザッ、ブスッ、バン、ヒュー、ドガン。
もう一体が真ん中に大きな穴を開けて、散った。
「勝者、緋色、木下ペア。」
観客が可愛そうな目で負けた二人を見ている。
「優子、後で、喫茶店に来るからな。」
「待ってるわ、緋色。」
優子と別れ、教室に戻った。

第６４話　大会と学園祭と変態コンビ（前書き）

体育大会終了しました。また、前の時みたいに更新出来ると思います。

第６４話　大会と学園祭と変態コンビ

緋色ｓｉｄｅ
教室に戻ったら、迷惑なキャラが二つあった。
「汚えなー、こんなところでぎゃあああああ！」
デュオが坊主を殴った。サイスでだが。
もう片方は確か…
「秀吉、あのソフトモヒカンにお主なんか大っ嫌いじゃ！馬に蹴られて、刀に刺されて、地獄より下に墜ちるのじゃと言ってこい。」
「承知。」
秀吉がソフトモヒカン（以下ソフモヒ）にあの台詞を吐いてきた。
そしたら、ソフモヒの頭から白い奴が出てきて、のの書取を始めた。
そしてデュオと雄二がビデオカメラで録画している。
ハゲの方が動き出しました。
「緋色、殺っていいぞ。」
客がいるのに、それは無理だ。
「そこの天然ハゲの方。この人は緋色由比だぞ。」
ざわざわと周りが騒ぎだす。
「デュオ、やっていいぞ。」
彼奴ヤルキあるぞ。
「お客さん、どいたほうがいいですよ。」
デュオが忠告する。そしてビームサイスを構える
「おらおらああ、死神様のお通りだあー！」
といってハゲのベルトが切れる。そしてそのパンツ丸だしハゲを雄二とムッツリーニが撮影している。
「おまえ等、覚えとけよ。」
あくにんの台詞を言いつつ、もう一人を連れて運ぶ。おもいっきり悪党みたいだな。

第６５話　大会と学園祭と二回戦（前書き）

ＰＶ６００００、ユニーク６０００達成。こんな駄文を読んでくださりありがとうございます。これからも宜しくお願いします。

第６５話　大会と学園祭と二回戦

緋色ｓｉｄｅ
俺達はまたモブキャラだったから瞬殺してきた。なので雄二達の二回戦を見に来た。
「おい、そこの根本の彼女、これを見たくないか？」
あれは…、根本の女装写真集。あのクラス全員が悲鳴を挙げたあいつの写真集だ。優子が見る気まんまんだな。
「緋色、あれって何なの？」
やはりそう来たか。
「根本の女装写真集だ。」
優子がフラフラしだした。名前挙げただけで気絶されるなんて凄い奴だな。ある意味だが。
ドサッ
優子が倒れた。保健室に運ぶか。
ｓｉｄｅｏｕｔ
優子ｓｉｄｅ
あれ、あたしは…？、確か会場にいたはずじゃ…。緋色が心配そうにこちらを見ていた。
「起きたか、優子。」
やっぱり倒れたんだ。
「ああ、今は二日目の朝だから、半日寝ていたな。」
半日も？まさか…
「緋色、ずっと居てくれたの？」
「やはり家の方が落ち着いたか？」
正直そうだけど緋色は大丈夫だろうか？
「緋色、寝てないんでしょ？あたしが膝枕してあげるから寝なさい。」
「一日程度、問題ない。」

そっか、兵士だもんね。
「なら、お前と家で過ごすか。」
それってサボりだよね？
「大丈夫だ、許可はある。」
え？
私は驚いた。

第６５話　大会と学園祭と二回戦（後書き）

召喚大会を楽しみにしてた方はすみません。これで一応、清涼祭は終わりです。この後はオリ話です。

第６６話　学園祭とサボりとデート（前書き）

いきなりオリ話に入りますが、打ち上げには参加する予定です。

第６６話　学園祭とサボりとデート

優子ｓｉｄｅ
「誰の許可を取ったの？」
学校行事をサボる許可なんて普通貰えない。たとえ、人が倒れても。
「学園長…じゃなくて妖怪大王クソババアだ。」
クラスメートの影響かしら？
「ちなみにどうやって？」
緋色は説得とか得意そうじゃないからね。
「学園長にバスターライフルを構えて、ビームサーベルを心臓付近に構えただけだ。」
下手すると殺人だわよね？
「ところで、どうするの？」
気になる疑問を一つ。
「学校にハッキングするのもいいが、どこか行くか？」
これってデートだわよね？
「如月グランドパークはどう？」
ウエディング体験があるから。
「リリーナの見舞いにでも行くか。」
えっ！デートじゃないの？
「たまには顔を出さないとな。」
どっちが大事なんだろ？
「大丈夫だ、ずっとはいないさ。そのあと如月グランドパーク以外のところに行くから。」
なんだ、良かった。
「早く行こう、緋色。」
「久しぶりにリリーナにあいたいみたいだな。」
こういう時だけ、緋色は鈍いんだから。
「軽く救急車あたりを取ってくる。」

「待ちなさい、緋色。バスで行きましょ。」
ジャックなんかしたら大変なことになるから。
あたし達はバスで病院に向かった

第６６話　学園祭とサボりとデート（後書き）

リリーナ久々の登場予定。
最近、ガンダム無双３にはまっていて、ヒイロが手に入らなくて、ヒイロの育成ができない状態です。一番はミリアルドとエピオンがいいですけど。
感想等お待ちしています。

第６７話　学園祭とサボりとリリーナ（前書き）

最近、自分の奴を読みますが、とても酷かったと思います。今もですが。今は前よりは良くなってると思うので。

第67話　学園祭とサボりとリリーナ

病院
リリーナside
最近、緋色が見舞いに来てくれない。どうしたんだろうか？まさか…彼女が。
居るわけがない。
「入るぞ、リリーナ。」
緋色だわ。理由を聞いてみましょう。
「緋色、どうして、見舞いに…、あら、そこの子は？」
緋色の後ろに女子がいた。まさか、拉致した？いや、なら重要人なのかしら？
「優子か？ああ、前も一回会っただろう？」
確かに会いましたけど…
「あたしは緋色の婚約者の木下優子です。」
自分の耳を疑ってしまう。デュオ君達なら笑いこけそうだ。
「リリーナ、どうかしたか？」
なんでここだけ鈍いんでしょうか？
「ところで、今日は学校の行事じゃなくて？」
とりあえず話題を変える。
「優子が俺のせいで倒れたからな、休んだ。」
よほど仲がいいみたい。
「優子さんでしたっけ？緋色はちゃんと生活出来てますか？」
ガブリエルの時は一応大丈夫でしたけど。
「一応問題ありません。」
一応？理由も聞こう。
「優子、俺は問題起こしたりしてないが。」
「学園長に武器を使って脅迫したのは？」
「あらあら、緋色ったら変わりません事。」

「悪い、リリーナ、そろそろ帰らせて貰う。」
「ええ、また今度」
こうして病室を後にした

第６８話　学園祭とサボりと召喚大会（前書き）

最近、雨、多いですよねー。
個人的に迷惑です。

第６８話　学園祭とサボりと召喚大会

緋色ｓｉｄｅ
「緋色、何処に行くの？」
「学校にでも行くか、客として。」
行くところないからな。
「お前も思いでが欲しいだろ？」
「そうね、行きましょ緋色。」
俺達は学校に向かった。

中華喫茶ヨーロピアンという矛盾した名前の店に来た。
「いらっしゃ…姉上に緋色、何をしてるのじゃ？」
秀吉が聞いてくる。
「ちゃんと許可はあるわ。」
「気にするな、単なる客だ。お前の劇はその程度か、トレーズの舞台の方が面白かったな。」
近くから明久が殴り掛かろうとする。だが…
「お前はほんとに単純だな。」
避けるかどうかするに決まってる。
「早く、秀吉に謝れ！」
「明久、何を言ってるのじゃ？」
確かにな。
「緋色が秀吉の事を…」
「おう、緋色。休みじゃないのか？」
皆の疑問を雄二が質問してくる。
「暇だったしな。そういえば昨日のメールの内容について詳しく聞かせてくれ。」
優子が？を浮かべてる
「明久が女装…失礼、アキちゃん？だったか？何があった？」

「吉井君、目覚めたの？」
確かに自分の妹の夫が女装趣味だったら…。
「大会はどうだ？」
「優勝したよ。」
「「優勝おめでとう。」」
優子と共に祝った。

第６８話　学園祭とサボりと召喚大会（後書き）

とりあえず、後夜祭をして三巻に移ろうと思います。

第６８話　学園祭と後夜祭とオレンジジュース（前書き）

来月にフローズンディアドロップ４巻と敗者達の栄光二巻が発売予定。

緋色「おい、宣伝はやめておけと言ったはずだ。」

気にせず後夜祭スタートです。

第６８話　学園祭と後夜祭とオレンジジュース

緋色ｓｉｄｅ
今、俺は後夜祭に来ている。
理由は優子も自分のクラスの後夜祭に行っていて暇だからな。
「それでは、かんぱーい！」
デュオがなんかはしゃいでる。
「デュオ、シャンパンは飲んじゃだめだよ。」
カトルもいた。
「カトル、今日ぐらいいいじゃないか。」
吐露和も珍しく反対しない。
「というより貴様等はいつも飲んでるだろう？」
五飛が暴露した。お前にそんなこと言われる筋合いはないがな。
「なにこれ？ああ、お酒か。」
明久はもう抵抗がないみたいだ。
「明久、なんか慣れてるみたいだな。」
雄二が聞く。
「そりゃ、先生や緋色達と飲んでるからね。」
決して一般の学生が誇れる物ではない。
プルプルプル
携帯が鳴っている。俺のだが。相手は工藤愛子？
彼奴とは関わりが無かった気が。
「もしもし緋色君？ちょっと来てくれない？」
優子に何かあったみたいだ。
「なにがあった？」
酔っぱらったぐらいだろ。
「緋色がいないと泣き出してさ。連れて帰ってくれない？親が気にすると思うから。」
優子の親は気にしないと思うが。

「カトルも連れてくるから待ってろ。」
「うん。」
なんか喜んでたな。
この後、カトルをつれて優子達の所に向かった

第６８話　学園祭と後夜祭とオレンジジュース（後書き）

案外１話じゃ終わらない物なんですね。この後は強化合宿の前に如月ハイランドを書く予定です。

第６９話　学園祭と後夜祭とオレンジジュース２（前書き）

久々の更新です。今までよりも悪化してるかもしれません。

第６９話　学園祭と後夜祭とオレンジジュース２

緋色ｓｉｄｅ
優子を迎えに来たのはいいのだが…
近くに酒が置いてある。たぶん酔ったんだろう。
「ひーろ、会いたかったぁ♪」
いつもと違うな。異常なままに。
「優子、おまえが寝る前に帰るぞ。風邪など引いてほしくないからな。」
「……ｚｚｚ」
もう寝たのか。しかたない。連れて帰るか。カトル達はイチャついてるからじゃまをしないようにするか。
帰り道
優子は意外にも重かった。久々だしな。
「ひーろー、足と首、どっちの関節がいい？」
乙女心とでもいうのか？トロワは女は傷づきやすいとかいってたしな。
「落ち着け、優子。起きたなら、降ろしていいか？」
あまり重い物とか持たないしな。対ＭＳ砲ぐらいしか。
「ひーろの背中が暖かいからやだ。」
学校生活と私生活の差が激しいな。
明久にチケットの処分について聞くか。
「おい、明久？如月ハイランドのチケットはどうした？」
「賞品は僕が、オリエンテーションは雄二が…」
やばい、これは、
「俺達は、チェックメイトだ。」
絶対雄二は優子達に渡してる。
「明久、それは霧島に渡せ。道連れを増やすぞ。」
「緋色も僕らみたいに染まってき…」

ブチッ

「優子、寝るか？」

こうして清涼祭は終わった

第６９話　学園祭と後夜祭とオレンジジュース２（後書き）

次回からハイランドに行きます。残りの一枚は…。
いったい誰の手に。
感想等を送ってくれると嬉しいです。

第７０話　俺らと彼女と如月グランドパーク（前書き）

清涼祭の最後が雑ですみませんでした。

第７０話　俺らと彼女と如月グランドパーク

緋色ｓｉｄｅ
「もしもし？」
誰からだ？迷惑な。
「キサマヲチマツリにアゲテミナデショケイシテヤル！」
朝から物騒だ。
ブチッ。切れたみたいだ。
プルプルプル。今度は誰だ？
「なんだ明久か。どうした？」
今日のことだろ。きっと。
「デュオ達は来ないの？」
「たぶん、スタッフになってるはずだ。切るぞ。」
早く済ませるか。
「緋色、如月ぐら「分かった。行くぞ。」いいの？」
未来は変わらないしな。
「明久や雄二達も来るらしいが。」
「なら早く行きましょ♪」
こんな優子、久々だな。
俺達は如月グランドパークに向かった。
ｓｉｄｅｏｕｔ
明久ｓｉｄｅ
「明久、きょ…「一緒に行こう。」ありがとなのじゃ♪」
雄二達がうらぎりませんように。
そういえば道が分からない。まあ、いっか。緋色達も来るみたいだしね。
「緋色、一緒に行かない？」
「道が…」
「バカだな。お前の家の前で待ってるぞ。」

早っ！まさか分かってたなんて。秀吉とは初めてのデートな気がする。たっのしみだな～♪

第７０話　俺らと彼女と如月グランドパーク（後書き）

次回は雄二達の朝ともう一組のカップルについて（の予定。）

第７１話　俺らと彼女と如月グランドパーク２

雄二ｓｉｄｅ
カーテンから差し込む光やらで俺は目覚めた。
「…雄二、おはよう、今日はいい天気。」
ベットの脇に翔子がいる。
今日は休日の為、制服ではないようだ。
「改めて、翔子、おはよう。」
「…うん、おはよう雄二。」
なぜ、翔子がいるんだ？約束は…してない。なら。
俺は携帯をと…ろうとしたが翔子に捕られる。理由でも聞くか。
「今日はどうしたんだ？」
いつもなら襲ってくるはずだ。
「…約束、如月グランドパーク。」
なぜ、翔子がそれを？
「優しい人達がくれた。」
ちっ、あいつら気づきやがったか。木下姉か、秀吉、大島に渡したのが読まれてたか。とりあえず、二人に死刑宣告でも送っとくか。
「…雄二、行こう？」
明久達も道連れだしな。運動代わりに行くか。
「分かった。下で待っててくれ。」
とりあえず死刑宣告もこれでできる
「…分かった。２０分以内に来なかったら、子供をつくる。」
いろいろ飛びすぎだろ。
とりあえず、早く行くか。
明久達も来るだろうし。地獄へは俺達みんなで行くのが、友達だしな。異端審問会がいなけりゃいいがな。

第７１話　俺らと彼女と如月グランドパーク２（後書き）

残り１カップルは平賀×大島ペアです。詳しくは二期の１２話あたりをどうぞ。

第７２話　俺らと彼女と如月グランドパーク３

緋色ｓｉｄｅ
今、６人で如月グランドパークの入り口まで来ている。
「帰ろうか。」×３
「帰さない。」×３
優子が最近、強くなってる気が…
「ねえ、あれ、平賀君達じゃない？」
あー、Ｄの代表か何かの。
「ちっ、なんてうらやましいんだ！」
お前も似た状況だがな。
「いらっしゃーい、如月グランドパークへようこそー。」「「デュオだろ？何してんだ？」」
なら残りのメンバーも…
「お客さーん、何言ってんだい、俺は、二重奏精霊王、通称ファザーだぜ。デュオ…なんて知りません。」
中二病的な名前だな。あだ名の由来分からないし。
「お客様、失礼しました。チケットをお見せください。」
雄二が六人分をだす。
「「「それ、使えないの？」」」
女子勢が動き出したか。
「いえ、大丈夫です。こちら、道化師、茄托、作戦開始だ。」
吐露和はサーカスにいたしな。
「では、カップル別に写真を撮ろうと思うので、並んでください。」
カメラマンなんていないが…
サッ
あれはムッツリーニだな。
「翔子、すまない。」
「ごめん、秀吉。」

みえないぐらいまで明久と雄二が彼女のスカートを上げる。
そしてカメラマンが鼻血をだして倒れた。

第72話　俺らと彼女と如月グランドパーク3（後書き）

緋「そういや、なんであと一組が平賀達なんだ？」
ちょうど二期みたら、肝試し編で出てきたカップルだったので使ってみました。
緋「まだ、見てない読者に謝れ。」
ネタバレしてしまい、すみません。
感想等、お待ちしております。

第７３話　俺らと彼女と如月グランドパーク４

緋色ｓｉｄｅ
カメラマンは鼻血をだしつつ、シャッターを切っていた。
「「どうやら、本質は隠せないみたいだな、ムッツリーニ。」」
雄二と声が何故か揃った。
「「続きはベッドで。」」
おかしい方にとんでるな。絶対。
「やらないよ。秀吉の下着には興味あるけど。」
お前の今の行動を公然猥褻というはずだ。雄二は…
「やらねえよ。お前の下着になんか興味ない。」
これは正解だな。
メシメシメシィ！
「ぐわぁあああああああ！」
雄二の頭蓋骨が大変なことになった（笑）。
「緋色は気にならないの？」
なぜだ優子。俺は交番には行きたくないんだが。ここは、適当に。
「気にならないといえば嘘になるが見せびらかす物じゃないと俺は思う。」
「写真をとるのでお互い手を握りあってください。」
俺は優子と手を繋ぐ。
特殊加工が何か知らないが、優子に任せておこう。
「よし、行こうぜ。」
何に乗るかなんて知らないから雄二に任せるべきか。
「何処に行く？翔子。」
任せた俺がバカだった。
「フィーがとっても×３面白いアトラクションを紹介するよ。」
桃色の髪の毛がはみでてる狐がいた。中身はおそらく…
「姫路（さん）だな（だね）。」×３

第７３話　俺らと彼女と如月グランドパーク４（後書き）

次回から平賀カップルと合流予定です。感想等を待ってます。

第７４話　俺らと彼女と如月グランドパーク５（前書き）

久々にアクセス数確認したら、７００００ｐｖ７０００ユニーク超えていました。こんな駄文を読んでいただきありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

第７４話　俺らと彼女と如月グランドパーク５

雄二ｓｉｄｅ
声も変えないとは…
「「おまえのオススメは？」」
この答えの施設に罠がある。
「フィーのオススメはおばｋ」
「平賀達と合流するか。」
翔子に何か吹き込まれたら大変だしな。あれは？根本？あいつもか！
「散開！」
平賀達の所まで行くぞ！
こういう時こそアイコンタクト。とても便利だな。
「「平賀ー！」」
緋色が珍しく叫んでいる。
「どうした？坂本君、吉井君、緋色君。」
「どうせなら、一緒に行動しないか？というより、行動しろ。」
味方は多い方がいい。
「いいよね？大島さん。」
「平賀君がいいならいいけど。」
「すまないな、大島。だが、平賀はたぶん襲われる。俺達と同じでな。」
「どういう意味だい？」
「女子と仲がいい奴は殺される。」
俺は違うと思うが…
「それに根本が参加していた。」
「見つけた。お化け屋敷に行く。」×３
地獄からの使者が着たか。
「平賀達も連れていっていいか？」
「うん。」×３

理解が早くて助かる。
「じゃあ、行くか、お化け屋敷（地獄）へ。」
「うん。」×４
「本音が聞こえたぞ」×２
こうして俺達はお化け屋敷に入った。

第７４話　俺らと彼女と如月グランドパーク５（後書き）

次回からお化け屋敷に入りまーす。

第７５話　俺らと彼女と如月グランドパーク６（前書き）

今、テスト期間中。まだ、前の結果は見せてません。酷かったので火曜あたりから更新出来なくなると思います。

第７５話　俺らと彼女と如月グランドパーク６

緋色ｓｉｄｅ
「結構雰囲気でてるな。」
こんなものか。
「病院に墓があるのが気になるが。」
何か出てくるな。
「大島さん、大丈夫だよ、君は僕が守り抜く。」
「平賀君、ありがとう♪」
これがデュオがいってるバカップルという奴か？
「…雄二、ｋ「嘘言うな。」嘘じゃない。」
「…じのほ…きだな…きいし。」×４
この声は…
「姫路の方が好みかな、胸が大きいし。」×４
俺達男性陣の声があのスピーカーあたりから聞こえるな。
「浮気は死んでも許さない。」×４
平賀の彼女も落ちたか。
「おお、翔子、何か出てきたぞ。」
でてきたのは…釘バット、チェーンソー、斧、鎌等々様々だった。
「死んでたまるかー！」×４
「おらおらー、死神様の御通りだー！」
デュオがいたのか。
「さあ、異端審問会の皆様がんばってね。」
「あいつらをころせー！」×四十人近く
この後、優子達と異端審問会に一時間追われるはめになった。
「結婚したくなりましたか？」
なるわけがない。
「カップルが窮地に立たされると愛が深くなる、ときいてますが。
まあ、次はディナーがあります。」

俺達はファザー？についていった。

第７６話　俺らと彼女と如月グランドパーク７（前書き）

久々の投稿です。遅れてくすいません。テスト期間だったので投稿出来ませんでした。

第７６話　俺らと彼女と如月グランドパーク７

緋色ｓｉｄｅ
そろそろ昼飯か。ファザー（笑）についていく。
「これから豪華ディナーが用意しています。」
ディナー？夕食か？昼だよな。
「…あ」
「どうした？翔子。」
「…いや、何でもない。」
移動中
「みなさん、お集まりいただきありがとうございます。」カトルまでいたか。
「この中には結婚を前提におつきあいしている、高校生のバカップルが四組います。」
バカップル？四組？三組じゃないのか？
「というわけで第一回ウェディング体験を手に入れるのか誰か、クイズ対決ー！」
「イエー」
誰だ、ノリノリの奴は。
「第一問、結婚記念日はいつでしょうか？」
何故だ、意味が分からない。ピンポン！×４
何故分かる！
「私達に愛がある限り、常に結婚記念日。」×４
やめろ、自爆して今のせりふを聞いた奴を俺達もろとも灰にしたい。
「正解でーす。」
「おかしいだろ！あとやめてくれ、恥ずかしすぎる。」×４
満場一致だ。似たもの同士ということか。これは俗に言う出来レース？というやつか？
もし、そうなら、四組用意してないはず。

生き残るのは
…この俺だ！

第７７話　俺らと彼女と如月グランドパーク８（前書き）

ディオディシムを最近やり始めているんですが、セフィロスのフォースフォームがとてもかっこよくて、虐殺を行ってます。一秒殺しとか。

まあ、どうでもいいと思うので本文に入りましょう。

第７７話　俺らと彼女と如月グランドパーク８

緋色ｓｉｄｅ

出来レースなら、手を出さないべきか。

「第二問、結婚式が行われるのは何処でしょうか？」

これぐらいなら雄二は乗るだろう。

ピンポーン！

雄二、がんばれ。

「ローストビーフ味のポテトチップス定価１２６円！」

この返しは以外だったな。

「正解でーす！」

何！

「結婚式が行われるのは、朱雀の間、別名ローストビーフ味のポテトチップス定価１２６円で行われまーす！」

おかしい。客が言い返さないだと、ほとんど生徒なのか？にしても…

「それは明らかに今作っただろうがー！」×４

男性陣がハモる程おかしいというのは理解して欲しい。

「第三問、あなた方の出会いはいつでしょうか？」

これは頂く！

ドン！

これは、後ろからやられたか。雄二以外やられている。油断したな、雄二は目をやられてるし。

「…小学校。」

「正解です。では、第四問、」

これは頂く！

「イヴウォーズまでに９９８１２人。」

これなら…

「正解でーす。では第五問。…」

「ちょっと待てやー！なんでこんな奴等だけ特別扱いなんだ、俺達

は、御・伽・苦・叉・魔だぞ！ごるあああああ！」
「私達もウェディ…」
チンピラ？きんぴら？どちらか知らんが迷惑だな。

第７７話　俺らと彼女と如月グランドパーク８（後書き）

最近、お気に入り件数が増えてきてとても嬉しいです。登録してくれている皆様ありがとうございます。
感想やご要望などもお待ちしています。

第７８話　俺らと彼女と如月グランドパーク９（前書き）

休日ってとても勉強する気でませんよね。おかげで成績が悪くて困ってます。

第７８話　俺らと彼女と如月グランドパーク９

緋色ｓｉｄｅ
これはチャンスかもな。あいつらなら出来レースは無理だろうからな。
このまま、行けば雄二達になり、俺達は解放される。一時的に。
「問題だぞ！ヨーロッパの首都は何処か答えてみやがれ！」
この問題がでた瞬間沈黙が訪れる。そして俺は気づいた、世の中には下があるものだと。明久よりバカがいたとは…
「正解でーす！」
「あ？おかしいだろ？」
「ヨーロッパは国でなく州のため、首都はございません。」
あの司会者、ニコニコしてるが、恥をかかせようとしてる。
「一番、正解数が多い坂本夫妻（笑）にはウエディング体験をしてもらいます。」
なぜか笑われてる。
「（笑）とは何だ！あと拒否権はないのか？」
むろん、ない。
「優子、残念だったな。」
とりあえず励ます。
「緋色、負けたからキスして。」
「公然でするわけにはいかないだろ。あと、一度着て、結婚式を迎えるより、初めて着たもので式を迎えた方がいいだろ？」
問題は、皆に聞かれた事か。
「うん、そうするわ。」
客達ががおかしな反応を…
「なんとも惜しい。このカップル達も手放したくなかったですねー、まったく惜しい。」
気づいたら、明久達も似たような事になってる。

第７８話　俺らと彼女と如月グランドパーク９（後書き）

次回、ウェディング体験に入ります。
感想等お待ちしております。

第７９話　俺らと彼女と如月グランドパーク８（前書き）

あと２３話ぐらいで如月ハイランド編は終わる予定です。
次は合宿に行こうと思います。

第79話　俺らと彼女と如月グランドパーク8

緋色side

今、雄二達は衣装に着替えており、関係者達が教会に集まる。俺達も。

「それでは、ウェディング体験を始めようと思います。」

カトルを久々に見た気が…

「新郎様の入場です。紹介はちんぴらの乱入により、時間が遅れているのでしょうりゃくします。」

適当だな。

「本音は？」

隣の工藤？が聞く。

「体験だから、紹介したら、本番の楽しみが減るじゃないか。」

嘘つけ。面倒くさいんだろう。次は新婦か。

「続いて、今イベントのメインヒロイン、坂本翔子様の入場です。」

「勝手に入籍させるな！」

雄二、ナイス突っ込み。

「綺麗ね、緋色。私なんかより。」

人それぞれに魅力はそれぞれだしな。

「俺は優子の方がいいが。」

「ありがと。」

どうやら、二人が真ん中に着いたようだ。

「…私、お嫁さんに見えるかな？」

さあ、どう答える？

「婿には見えないぞ。」

それは酷いと思うが、一種の愛だろ、ツンドラかツンデロか知らんが。

「…嬉しい。私はずっと、雄二のお嫁さんになることが夢だったから。」

「マジ、そういうのいいから、早く進めろ！」
「私たちぃ、暇じゃないんすけど、お嫁さんが夢？おかしいんじゃないの？」
明久と平賀が殺る気が見える

第７９話　俺らと彼女と如月グランドパーク８（後書き）

また、お気に入り登録数が増えました。してくださった方、ありがとうございます。
今後もよろしくお願いします

第８０話　俺らと彼女と如月グランドパーク９　（前書き）

前回の前書きであと２３話とか書いてましたが、２、３話の予定です。

第８０話　俺らと彼女と如月グランドパーク９

緋色ｓｉｄｅ
「待て、二人とも。せっかくの雰囲気を崩すな、後でやりに行くぞ。」
これで二人は落ち着くだろう
「あれ？花嫁さーん？皆様花嫁様を知りませんか？できれば皆様も探してください。」
できればか。なら、お言葉に甘えさせて。
「雄二。」
「翔子の事ならパスさせてくれ、便所いきてえ。」
嘘がバレバレだな。
「どうせ、チンピラを潰すつもりなんだろ？俺らが殺ってくるぜー！」
デュオ、カトル、トロワ、五飛が来た。
「カトル、暴走するなよ、二年前みたいに。」
あれは虐殺の体言者だな。
「おっしゃあ、久々の戦闘だな、行くぜ相棒！」
「久々の仕事だな。」
「行くよ、サンド、ロック。」
カトル曰く、右手のショーテルがサンド、もう一方がロックらしい。
「正義は俺が決める！」
「緋色由比、出撃する。」
こうして５人で処刑に向かった。
ｓｉｄｅｏｕｔ
雄二ｓｉｄｅ
翔子はこのあたりに…いた。
「翔子！」
俺は気づくように大きな声で呼ぶ。

「…雄二？」
泣きそうな目をした翔子が振り返った。

第８０話　俺らと彼女と如月グランドパーク９　（後書き）

妙なところですみません。うまく行けば、次回で終わります。その後に合宿編に行こうと思います。

第８１話　俺らと彼女と如月グランドパーク１０　（前書き）

今回は、翔子視点です。

第８１話　俺らと彼女と如月グランドパーク１０

翔子ｓｉｄｅ

「せっかくの体験なんだ。記念品ぐらい、持って帰ってもいいと思うぞ。」

といって私にヴェールをかぶせてくれた。

「…雄二、私の夢、変？」

「言っておくが、今までのお前の気持ちは勘違いだ。俺は責任をはたしたにすぎない。長い間、こんな人間に時間をかけさせてすまない。」

そんなことはない。

「だが、確かに俺はお前を好きなのかもしれない。しかし、お前の隣におれがいるとお前に迷惑がかかる。そして、ずっと一人の人を思い続けることは胸を張っていいことだ。」

私の夢は変じゃないみたい。

「あと、弁当、旨かった。」

雄二が笑いながら私のバッグを見せる。

「翔子、もう一回考え直してくれ。もし、本当にいいなら、正式につき合ってやる。」

私は…

「雄二！、私はやっぱり何も間違っていなかった。」　この人についていく。何があっても、一生ついていく。これは、あの時からの私の夢。

「じゃあ、帰るか。あんま遅いと誤解されるしな。」　「「おめでとう、二人とも。」」

木から降りてきたのは優子と緋色だった。

「てめえら、隠れてたのか？」

さすが、もと兵士。嘘ではないみたいだ。

「用が済んだし帰るか。」

緋色達の後を私達はついていく

第８１話　俺らと彼女と如月グランドパーク１０　（後書き）

どうでしたか？次は強化合宿です。
感想等もお待ちしています。

第８２話　僕と脅迫と強化合宿（前書き）

やっと3巻に突入。とてもスローという実感があります。気にせず本編に行きましょう。

第８２話　僕と脅迫と強化合宿

緋色ｓｉｄｅ
普通の朝だった。いつも通り、優子と朝を過ごし、明久達と一緒に学校に来た。そこまでは良かった。
明久の靴箱に一通の手紙が届いた。
それは、脅迫状であった。
向こうで明久が騒いでる。内容は知らないが、明久の女装写真が入っていていたのに俺は驚いた。
「明久、目覚めたか。さようならだ。」
慈愛に満ちた目で見送ろうか。
「緋色、助けようとは思わないのかの？」
俺より詳しい奴いるだろ。
「ムッツリーニに訪ねたのか？」
あいつはこういう専門のはずだ。
「そうじゃ、ムッツリーニがおる。明久行こうかの。」
気づいてないとは…
「笑われる！」
それは意外だ。
「この手はムッツリーニが専門じゃろうて。」
「さすがだよ、秀吉。さすがは僕のお嫁さん（予定）だよ。」
秀吉が拗ねてるように見える。
ついていこうか。
「むっ「俺が先だ。」雄二、どうしたの？」
どうせ、将来についてだろ。
「明久が清涼祭の時のアレを録音していた。あいつは機械音痴だから出来る分けない。」
なるほど。
「明久、何をした？」

「雄二にプロポーズ的な事を言ってるフリをさせた。」
「なんだ、お前、前に告白したじゃないか。」
明久が？を浮かべている。

第８２話　僕と脅迫と強化合宿（後書き）

感想等を待ってまーす。

第８３話　僕と交渉と強化合宿

緋色ｓｉｄｅ
「緋色、告白って？」
ああ、こいつは先に帰ってたな。
「ところで明久は何の用なんだ？」
逸らした。完全に逸らした。
「えっと、僕の女装写真が全世界に…」
「「そんなものはどうでもいい。」」
ハモった。よくハモる気がする。
「デュオ、協力してやってくれ。」
近くにいたから巻き込む。
「依頼かい？緋色？」
「明久の女装写真が全世界に…。」
「りょーかい。報酬は？」
もちろん、
「現金だ。明久の。」
やめてくれ、みたいな顔だな、明久。
「だって、今月神ゲーが週一発売なんだよ！」
こいつ、確か、生活が。
「「生活改めろ。」」
またハモってしまった。
「じょうだんだよ、明久。その代わりにお前に言っておく。お前の女装写真、かなり人気あるぜ。」
確かに、分かる…わけない。
「ムッツリーニ、僕の宝物一つでいいかな？」
「俺も秘蔵コレクションの一冊で頼む。」
本か？ムッツリーニ＝エロ
「「ちなみに何の本？」」

デュオまでハモるとは…呪われている。
「「「エロ本！」」」
叫んだ、こいつら。第三者から見たら変質者だな。
「さて、そろそろ時間だな。」
「頼んだよムッツリーニ。」
暇だしな。手伝うか。

第８３話　僕と交渉と強化合宿（後書き）

今回、縦がとても長い気がします。
感想等待ってます。送ってくれると嬉しいです。

第８４話　僕とバスと強化合宿（前書き）

今日は退屈な為、早く投稿しました。

第８４話　僕とバスと強化合宿

緋色ｓｉｄｅ
今、バスの中にいる。しかし、いつものメンバーではない。
答えは優子達に拉致された。雄二とカトルと俺が…
「カトル、ゼロシステム使うか？」
ゼロシステム。それはシステムが状況を判断し、直接脳に送り、戦闘力を高めるシステムである。そのおかげでシュミレート結果が脳に送り込まれ、その負担で死んだ人も多い。
「緋色、説明長すぎだよ。後、僕は克服済みだよ。」
そういえば…
「「何の話？」」
一般市民は知らないしな。
「それを持ってきてたりしてないよな？」
雄二、まさか…
「まあ、置いといて、何故俺達を連れてきた？」
「「「会いたかったから。」」」
男子の目線がとてつもなく痛い。
「「「それだけ？」」」
それだけで拉致るとは伊達じゃない。
「リア充は死ね！」×２１
リア充？知らないな。
「…そろそろお昼。」
何時間眠ってたのだろうか？

第８４話　僕とバスと強化合宿（後書き）

ゼロシステムの簡単な説明をさせて頂きました。ぼちぼちこんな感じなのがあると思います。

第８４話　僕とバスと強化合宿２（前書き）

ｐｖ８００００００ユニーク８００００達成！よんでくれる方ありがとうございます。駄文ですがこれからも読んでくれると嬉しいです。

第８４話　僕とバスと強化合宿２

緋色ｓｉｄｅ
俺達はＡクラスの人たちといる。会いたいだけで拉致された。
「そういえば、優子達って、同棲してるんだよね？」
それが？
「ええ。でもどうしたの？」
確かに…工藤の事だから食事にふさわしくない会話だろうが…
「どこまでいったの？もしかして、子供の名前まで考えたりしてる？」
子供か。遠い未来だな。
「そ、そんな訳ないじゃない。」
考えてたな、絶対。
「「「お薦めは？」」」
なぜ、はもるんだ！
「男の子だったら翔で、女の子だったら佳奈かな？」
両方考えてるだと！
「優子、いつの間に。」
そんな暇ないだろ。
「授業中や休み時間。」
「でも、僕達とお話してるよね。浮気防止とか、色仕掛け等の。」
「同時進行でやってるわ。」
優子の脳内凄そうだ。
「そうか！分かったぞ。」
カトルがいきなり叫ぶ。
「愛子がよく露出度の高い服で来るかが。」
あいつ何やってるんだ。
「よくアウダとかラシードとかにからかわれるけどね。」
ラシード？あのモノアイ部隊の一人だな。

「あいつ生きてたのか？」
死んだのかと思った。
「３９人生きてるよ！」
あれ？４０じゃ？
ひとりは死んだのだろう。

第８４話　僕とバスと強化合宿２（後書き）

マグアナック隊について。
マグアナック隊とは、４０体のマグアナックというモビルスーツで形成される。カトルの援護部隊である。３９の理由は、途中で一人裏切ったから。ちなみにマグアナックはアラビア語で家族である。知らなくていい知識ですが、一応書いておきました。感想等を送ってくれるとうれしいです。

第８５話　僕とバスと強化合宿３

緋色ｓｉｄｅ
明久達何やってるんだろうか？
「雄二、明久達、何かしてるだろうか？」
「心理テストやった後に飯で姫路の奴を食わされて川をさまよってるあたりじゃないのか？」
こいつ、たぶん頼んどいたのだろう。
「もしもし、デュオだぜー、明久が姫路の料理食って倒れたんだが、どうするべきだ？」
おまえ、知らずに協力してたのか。
「姫路はいろいろな薬品を食べ物に混ぜている。」
「えーーーー！」×５
しらない奴多いな。
「おい、五飛、早まるな、トレーズはその川にはいない。」
五飛すら駄目なのか。
「まあ、合宿所が近いみたいだから、そのとき。」
とりあえず忘れよう。
「ありがとう、愛子、君は命の恩人だよ。」
その台詞…
「トロワにも言わなかったか？」
「人生のパートナーが抜けてるぞ。」
雄二め、他人を巻き込む気か。
「いや、まだパートナーはサンドロックだよ。今はショーテルだけど。」
ある意味悲しい人間だな。客観的には。
「え？カトル君はボクをどうでもいいと思って…」
とりあえず
「「明久達の迎えが先だな。」」

「そのとおりだね。」
スルーをしておく。
二人の無事を祈るか。

第８５話　僕とバスと強化合宿３（後書き）

バスの中がとても長かったです。やっと入れます。
感想等をお待ちしています。

第８６話　僕と川と強化合宿（前書き）

ガンダムＷ本編に触れてみようと思います。しばらくは用語の説明などです。
今回はガンダムについてです。
ガンダムとは、ガンダニュウム合金で作られたモビルスーツを指します。
次回は原作の年号ＡＣです。

第８６話　僕と川と強化合宿

明久ｓｉｄｅ
この川は？あ、あの人は教科書に乗ってた、トレーズクシュリナーダだ。隣で話してるのは五飛？何話してるのだろう？
「マリーメイアが世話になったな。すまない。」
マリーメイア？どこかで…
「俺は自分が本当に正しいか確かめたかっただけだ。お前はあの時、死んだよな？」
死んでるはずだ。
「五飛、私は今も生きている。これは、臨死体験だ。」
え？というより、起きなきゃ！
グボラアッ！×２
「やっと目覚めたか。」
あれ？皆どうしたの？
「何やってた明久、五飛。」
トロワが聞いてくる。
「トレーズにあって話をした。奴はまだ生きてるらしい。」
「僕は二人の話を聞いてた。トレーズさんは臨死体験中だったらしい。」
元兵士の四人が驚いてる。
ｓｉｄｅｏｕｔ
トレーズｓｉｄｅ
やはり、臨死体験で五飛と会えるとは。
「どうしたのですか、トレーズ様。」
レディアン。昔からの部下であり、マリーメイアの保護者になってくれた、火消しの金こと、プリペンターゴールドだ。
「懐かしい友にあったよ。川で。」
自分から行ったが、危なかった。

「トレーズ様は教師になるのですね。」
「ああ、懐かしい友達のいる、あの学園へ。」

第８６話　僕と川と強化合宿（後書き）

トレーズ復活。無茶苦茶なのは分かってます。でも死ぬには惜しい人なので出しました。
感想等お待ちしております。

第87話　覗きと濡れ衣と強化合宿（前書き）

今回は緋色達が地球に降下してきたきっかけにもなった、オペレーションメテオについてです。
この作戦は移住空間コロニーを流星のように地球に落とし、その後ガンダムが地球を制圧する作戦でしたが、緋色達を育てた5人の科学者が作戦内容を変更したため、本来のオペレーションメテオが行われる事は無かった。
長くてすみません。では本編をどうぞ。

第87話　覗きと濡れ衣と強化合宿

緋色side
トレーズ、生きてたとはな。
それは、いいか。会わないはずだし。
「全員、手を後ろに組んで、動かないで！」
え？とりあえず：
「デュオ、こういうときは窓から飛び降りるのと全員を消す、どっちがいいだろうか？」
効率的には後者と思うが、補修送りになるから：
「もちろん、窓からだぜ、明久、雄二、ムッツリーニ、俺達についてこい！」
女子が驚いてるぞ。その前に何故こうなったんだ？
「ムッツリ、雄二バリア！」
といって女子の前に連れ出す。
「行くぞ明久、隣の奴に話は聞けばいい！」
二人は注意を引き寄せるための餌として使わせてもらった。
「五飛！」
「でやぁぁぁ！」
ドラゴンハングナタク版
痛いだろう。
バリン！
デュオ、突っ込んだか、そろそろだな。
「みんな行くよ。」
カトルの合図で皆窓から飛び降りる。
「あいつらバカすぎでしょ、ここ三階よ！」
「そりゃー、失礼すぎだろ、俺達は普通のクラスじゃないからな！
追伸、怒ってばかりだと老化は早くなるぜ、おばさん。」
デュオ、嫌がらせにしか聞こえないが。

第８７話　覗きと濡れ衣と強化合宿（後書き）

次回の前書きはヒイロユイについてです。

第８８話　覗きと濡れ衣と強化合宿２（前書き）

今作主人公のヒイロユイは偽名である。本名は不明です。
父は本当のヒイロユイを暗殺した、アディンロウという狙撃手。コロニー革命のときに自爆死、母はエージェントだったが、息子を助けようとして炎に包まれ死亡。この二人は紹介するかもしれません。
本人は最初は任務失敗をしたとき自殺を試みたが、骨折までしか届かなかった。そして力技で骨折を直す技術を身につけた。

第８８話　覗きと濡れ衣と強化合宿２

緋色ｓｉｄｅ
久々だな。高いところから降りたのは。
「雄二、ムッツリーニ大丈夫か？」
先ほどドラゴンハングに掴まれたまま飛び降りたしな。
「いてえじゃねえか、五飛。」
そりゃ、戦闘用だし。
「我慢しろじゃないと…」
雄二、逝ってらっしゃい。
「…浮気は許さない。」
「ダッシュ！」×７
ムッツリーニ、次はお前だ。
「土屋くーん、お話が…」
姫路と後ろのは…
「こーたー、生きる覚悟は？」
冥福を祈る。
「ムッツリーニ」×３
次は…
「とりあえず補習受けるか。」×５
鉄人の愛称で呼ばれてる西村宗一さん。三つ目の名が文月の悪夢。
「吉井も観念しろ！」
いや、観念はしてない。
「皆、どうしたのさ？」
分からない君は幸せだな。
補習中

補習後

「こうなったらやってやろうじゃないか。女子風呂をのぞきに行くぞ。」

何があった。

「あ、緋色達、良いところに…」

未来は見えているはずだ！

「断る！」×5

「なんだと！」×3

驚かれるとはこちらが驚く。

第８８話　覗きと濡れ衣と強化合宿２（後書き）

お気に入り件数増えました。してくださった方ありがとうございます。
次回はデュオマックスウェルについてです。
感想待ってまーす。

第８８話　覗きと濡れ衣と強化合宿２（前書き）

デュオマックスウェル。由来は小さい頃、盗みに働いていてそのリーダーがソロ。これは独奏の意味で、一緒にいるということで二重奏、デュオがついた。マックスウェルは彼が世話になった教会が由来である。ヒルダとは捕まった後に脱走したあとに兵士志望者だったヒルダと出会う。
今作では、原作の雰囲気的に恋人になっています。

第８８話　覗きと濡れ衣と強化合宿２

デュオｓｉｄｅ
まさか、ここまでバカとは思わなかったな、さすがに俺も。
「だめだよ、明久、君は木下さんの裸が…」
カトル、それじゃ緋色が…
「僕は木下さんの裸になんか興味ないよ。」
「任務了解、ターゲットロックオン。」
やはり。って待て！バスターライフルは処理が大変なんだよ！
「落ち着け、緋色。」
トロワ、ありがとな。
「デュオ、緋色、理由は朝のことに関係してるんだ。」
のぞきと写真がまったくつながらない。
「朝のこと？」×３
そーいや知らなかったな。
「明久と雄二が脅迫されている。」
どうでるか。
「だが、まったく話が見えない。」
五飛、それは俺達もだ。
「ムッツリーニの情報だと、犯人は尻に火傷があり、自分の事を乙女と言ってるから女子だろ。これで分かったろ？」
答えは、
「断る。眠いし。」×５
最近ハモリすぎだろ俺ら。　「何故、兵士がそんなことを言うべきはずが…」
おまえ、忘れたか？
「俺達は、」←緋色
「兵士の仮面を取った。」←トロワ
「つまりなー、」←俺

「戦いとは無縁なんだよ。」←カトル。
「いいことを代わりに教えてやる。我が一族の教えだ。」
それは、あれだよな？
「俺達に倒された奴が悪だ！」

第８８話　覗きと濡れ衣と強化合宿２（後書き）

そういえば、エンドレスワルツの小説よんで気づきましたが、五飛とか、ゼクス達とか、トロワなどは話が矛盾してます。
それはともかく、次回はトロワバートンについてです。
感想でもアドバイスでも送ってくれるとありがたいです。

第８９話バカと覗きと強化合宿（前書き）

今回はトロワバートンです。
緋色と同じでこの名はコードネームである。
本当のトロワはヘビーアームズの作成者の助手に殺される。詳しくはエンドレスワルツを見れば分かります。
本人は十歳から傭兵として働いていたが、ヘビーアームズの整備士になる。ちなみに心の中で会話をしている。

第８９話バカと覗きと強化合宿

トロワｓｉｄｅ
五飛、それはあいつらに対する嫌がらせだ。
「さすが五飛だ。」
「俺達こそ正義。」
「つまり何をしても間違っていない。」
やはりな。止めなくていいか。
「おい、五飛、そんなこと言ったら…」
たぶん、ズタボロになった後に補習だな。
「いくぞ、明久、ムッツリーニ。」
「おお！」×２
この後の結果は大体の人は予測つくだろう。
「さて、明久達の戦いぶりでも見に行きますか？」
面白そうだな。
「ああ。」×４
満場一致により移動。

廊下
雄二対布施先生？
「おまえ等助けてくれるのか？」
まさか…
「見に来ただけ」×５
「おい、嫌がらせか？」
そんな訳ない。
「俺達は明久を見てくる。」
緋色、デュオ、明久退場。
たぶん相手は鉄人だろう。

あ、雄二がやられた。

第８９話バカと覗きと強化合宿（後書き）

次回はカトルです。本名は長いので次回のみ使う予定です。
感想等くれたら嬉しいです。

第９０話バカと合同学習と強化合宿（前書き）

カトル・ラバーバ・ウィナーは唯一ミドルネームを持っているキャラです。普段は温厚で優しいのですが暴走すると数万人の人を躊躇無く葬ったりしました。そしてトロワですら記憶喪失にまで追い込まれた程です。

第９０話バカと合同学習と強化合宿

カトルｓｉｄｅ
今は強化合宿二日目の朝
いつもみたいに起きたら紅茶を飲みたいけど、ないからしかたない。
昨日は当然三人のボロ負け。当然といえば当然だけど。
合同学習ば始まるかな、急がないと。

「…雄二、勉強も一緒に出来て嬉しい。」
も、という所は別におかしくは…
「坂本夫妻は、相変わらずアツいねー。」
まさか…、明久がクラスメイトと一緒に上履きを構えてる。
「総員、上履きを持てー！」
戦闘体勢だね、秀吉がいたら…
「何やってるのじゃ？明久。」
本当にいた、なんかあたるね兵士のかん。
「カトル君たち、ご一緒していいかな？」
愛子は少し遅れたみたいだ。「えっと工藤さん？」
疑問系なのはスルーして。
「そうだよ、アッキー、いや秋ちゃんとでも呼ぼうかな？」
確かあれは明久の女装の時の名前だったっけ？
「すみません、工藤様、せめてアッキーでお願いします。」
黒歴史なんだろあれ。僕のよりかは生優しいけど。
「僕、最近、これにはまってるんだよね。」
ボイスレコーダー？授業の録音？いや愛子の場合それはオマケだ。
「おい、明久、工藤が犯人か確かめてほしい。」
愛子がそんなことするわけ…
完全に否定できない。

第９０話バカと合同学習と強化合宿（後書き）

フローズンディアドロップ４巻買いました。内容はいいませんがよかったです。ちなみに２６日にサンドロックのガンプラや敗者たちの栄光２巻と同時発売でした。

第９０話バカと合同学習と強化合宿（前書き）

張五飛。この読み方はちょうごひじゃなくてチャンウーフェイだそうです。
名前の由来は三国志の張飛からしく、彼も東洋人です。正義が愚かとしりつつも確固たる正義を持ち続けていた。しかし、バートンの乱では本当の正義を確かめる為に悪になった。蛇足ですが、五飛には妻がいて名前が竜妹蘭でした。しかしトールギスに乗って戦い、そして自爆に遭い死亡。それから五飛は自分の機体を那託と呼ぶようになりました。

第９０話バカと合同学習と強化合宿

五飛ｓｉｄｅ
相変わらず、デュオ並のバカがたくさんいるな。
「おい、五飛、それが戦友に送る言葉か？」
お前確か昨晩こういったはずだよな？
「俺達は兵士じゃないと言わなかったか？兵士でもない奴に戦友はいない。」
兵士以外戦わないしな。
「はいはい、私がわろうございました。」
明久達が面白いことになってれば良いが…
関節が外れてる明久
石畳を置かれてるムッツリーニ
目を押さえて苦しむ雄二
なかなか戦場じゃ見れないな。
「感心してないで助けろ！」×３
相変わらず一般とずれてるな。俺達がいえないが。
「もう少し静かにしてくれないか？吉井君達。」
メガネ男子が来た。昔の俺をみてるみたいで腹がたつ。
「ごめん久保君。」
あいつ顔が赤いな、熱とかではないようだがとりあえず…
ヒューヒュイ！
ドラゴンハングで頭を掴み叩きつける。すっきりするな。那詫と一体化してる気分にもなれるし。
「五飛、何やってるんだよ。」×２
二人相手か。
「いいだろう、正義は俺が決める！」
久々の肉弾戦だな。鈍ってないといいが。
「違うよ、五飛、聞きたいのは久保君に攻撃した理由。」

ああ、それは…
「無償に叩きつけたかったから。」
これで納得するはず

第９０話バカと合同学習と強化合宿（後書き）

感想やアドバイス、ご要望お待ちしております。

第９１話バカと合同学習と強化合宿２（前書き）

しばらく原作についての解説は休ませていただきます。理由は、５人の説明をとりあえずしておいた方がいいと思っただけなので。書くこと無かったらまたしますが。

第９１話バカと合同学習と強化合宿２

緋色ｓｉｄｅ
五飛が久保？を叩きつけてる間に明久と工藤のやりとりでも見とくか。
「工藤さん、君が僕にお尻を見せてくれると腕がああああア」
変態だな、堂々と浮気とかお前はデュオか？
「緋色、いつ俺が浮気したんだよ？」
自分で言ってたじゃないか、気が多いと。
「よしいくーん、気持ちは嬉しいけど無駄な相談かな？」
こいつもイカレてる。ろくな奴いないな。聖ガブリエルの方がマシかもな。
「吉井君、君のおかげで完成したよ。」
一体何が？
機械の再生音の後
「工藤さん、僕は君がほしい。」
明久の声の合成であった。
「次は右腕じゃな。」
さっきは左腕折ったのか、多少の情けはあるんだな。
「助けて緋色。」
大丈夫だ明久、もしもの時は、
「強制的に骨折を直してやる。」
他人にするのは痛くないからな。
「優子、俺とやらないか？」
工藤か。軽く、四肢の関節離した後に、脊髄離そうかな？
「緋色、そういうこと人前では言わないでよ！」
人前では？
「工藤、脊髄矧がされるのと、四肢の関節離されるのどちらがいいか答えろ。」

どっちも当然
「死ぬほど痛いがな。」
「愛子には手を出させない。」
カトルと戦うのは久々だな。

第９１話バカと合同学習と強化合宿２（後書き）

無茶苦茶にバトルシーン突入。果たして勝のはどちらか？
感想等を頂けると嬉しいです。

第９２話バカと戦闘と強化合宿（前書き）

いやー、文化祭だるいですね。うちの学校は文化祭と言いつつ、クラスでの出し物なんかなく合唱と学年毎の発表ぐらいしか無く、しかも、体育館に閉じこめられるという嫌な状態でした。小説とはずれてますのでここまでとします。

第９２話バカと戦闘と強化合宿

緋色ｓｉｄｅ
「はあ！」
得意のクロス斬りか、甘いな。
「モブキャラバリア！そしてモブキャラタックル。」
一人はカトルにクロス斬りを喰らい、もう一人は…
「いただく！」
ビームサーベルでカトルと一緒に貫く。
「ぐわぁあああぁぁぁ！」×２
「さすが緋色、ウインドを倒しただけある。」
あれは肉弾戦じゃないがな。
「あいつはもうウインドじゃないだろ。」
キュレネの風、又はゼクスマーキスだな。
「ラシード、シェヘラザードを。」
あいついるのか？
「この土地ごと消すか、ゼロなら一つの島ぐらい軽く消せるだろう。」
実際そのくらいのものをしとめたしな。
「カトル君、やめてよ、確かに僕が悪かっ、痛い痛い、やめて緋色君、きゃあああ。」
女子の悲鳴とはこんなものか。
「緋色、何でしたのさ？」
それについては
「俺が一分あれば直せる、そして主はこういった、右関節を外されたら左関節を差し出せと。」
この国は仏教が多いから多分出さないだろうが。
「緋色、この国は仏教の国だよ。主じゃなくて仏はじゃないのかな？」

いや、まず、そういえば差し出すものじゃないだろ。

第９３話バカとのぞきと強化合宿

緋色ｓｉｄｅ
現在午後七時。
明久たちが覗きにいく一時間前。
「今日はどうする雄二、こっちも作戦を立てないと同じ目に遭うよ。」
見てて可愛そうだったしな。
「手は打ってある。」
さすがといいたいが、たぶん無理だ。
「おい、坂本、なんだよ用事って？」
なぜなら最低クラスの男子達だから。
「おまえ等、女子の裸見たくないか？」
絶対乗るだろうこいつ等なら。
「詳しく聞かせろ！」×４４
今日も観戦するかな。
「ちなみに俺達の頼みを聞いてほしい。」
何故？このタイミングで？
「尻に火傷がある女子を探してきてほしい。」×３
こいつらにそんなこと言ったら…
「お前等の性癖はイカレテやがる！」×４４
思ったとおりだな。
「違う、それさえ見つけてくれたらいいんだ。」
「俺達に任せろ！」×４４
明久達はどうするのだろうか？
「俺達は観戦しに行くか。」
自分は戦わないんだ。
「そうだね、行こうよ、緋色達も。」
答えは…

「行かせてもらう。」
どうなるだろうか、地味に結束力あるからな。

第９４話バカとのぞきと強化合宿２　（前書き）

忙しくて一日一話がきつくなってきました。最低でも週一はしようと思います。

第９４話バカとのぞきと強化合宿２

緋色ｓｉｄｅ
勝敗も気になるが、あいつらの作戦とかどうなんだろうか？
「サーチ！ａｎｄ！デェェェェス！」×４４
頭が相当おかしいな、最低クラスといってもここまでは普通ないはずだ。
「五飛、教えてくれ、俺の常識はズレてるのか？」
「むろん、俺達が正しい。」
理由は俺達が正義だからだ！とでも言うだろう。
「倒した奴はどう扱っても構わん。触りたい奴はさわっとけ！」
須川、それはあんまりだ！
「おい、雄二、あれでいいのかよ？雄二？おいどうしたんだよ？」
そういや明久達三人は他の場所で見てたな。おそらく巻き込まれたのだろう。
「ぐわあああああああ！」
前言撤回。処刑されてたようだ。気の毒に。
「緋色、逃げて！そっちに秀吉のねえさ…「明久、儂と話さないで誰と話してるのじゃ？」ぐわあああああああ！痛い痛い、緋色の骨折治療より痛い！」
優子が来てるのか。さてどうするものか？
「デュオ、結果を後で教えてくれ。急用が出来た。」
ｓｉｄｅｏｕｔ
雄二ｓｉｄｅ
ちっ…翔子にまったく気づかなかった。くそ、最悪補修にいかないように思ったがしかたない。
「お前等、理想郷まで共に駆け上がるぞ！」
「オオオオオオ！」×４５

第９５話バカとのぞきと強化合宿３

緋色ｓｉｄｅ
優子はどうしようか？逃げるのも捕まえるのも出来る。感情に従っても迷ってしまう。こんな時にエピオンかゼロがいたら…だめか。あいつらは何も言わない。しかたない待つか。戦闘にはならないはずだしな。
「緋色、やっと見つけた。」
あんまり逃げてなかったが…
「何のようだ？」
「あんたが覗きに参加してなかったらどうしてるのかなって思って。」
俺達を除いて覗きに参加してるからな。
「お前は防衛に参加しなくていいのか？」
「あたし一人ぐらい大丈夫よ。ところで緋色は女性の体は興味ないの？」
「そんなこと考えたことがない。そしてそんな事考えたら、お前が関節外すだろ？」
戻すのはできるがだるい。
「たしかにそうなるわね。」
「そして反射的にお前の関節外すかもな。先に。」
「確かに一般人とは違うもんね。」
アディンとかに鍛えられたしな。
「優子、お前はどうするんだ？」
「緋色と一緒に寝るだけよ。」
ｗｈｙ？何故なんだ！
「先生の許可はあるわ。心配しないで、吉井君達もよ。」
学園の長に対して脅迫したか…
「か、勘違いしないでよ！学園長室でビームサーベルなんて使って

ないんだからねっ！」
一般の女子高生が学園の長に脅迫。

第９６話バカとのぞきと強化合宿４

緋色ｓｉｄｅ
さて、ババアを消すか、明久を消すか。どうするかな。
「優子、俺は用事を済ませてくる。」
女子の方につけばいいか。
「どうせ、覗きを防ぎに行くんでしょ？あたしも行くわ。」
優子がいると予定より早く済むな。

「優子。とりあえず俺は全員を灰にするつもりだ。先生含め。」
「高橋先生に勝てるわけ…」
堂々と戦えば難しいが破壊工作員は効率よく任務をすいこうするからな。
「優子は男子を頼む。俺は女子の頭を潰す。」
「下手したら突破されるわよ。」
問題ない。
「まあ、行ってくるわ。」
優子さえ大丈夫ならいいからな。さて、姫路や霧島から潰すか。
ｓｉｄｅｏｕｔ
雄二ｓｉｄｅ
チッ、木下姉まで来るとは。今回は…
ドン！ドン！ドカーン！
何だあのビーム何処から？翔子や姫路がやられてる。たぶん緋色だな。あとで…
「伝令！何処かから狙撃され味方敵損害大です。」
あいつ男子も敵に回す気か？計算外だ。
「伝令！敵味方問わず大損害です。しかし敵の確認できません。」
デュオもか…なら、

「伝令！大量の弾丸が敵味方問わずやられてます。」
ええい！トロワだな！
チッ！木下姉もいるのに。あと二人も動くだろ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4729v/

バカと堕天使と召喚獣

2011年11月16日21時19分発行